

政策 これまでに取り組んできた
改革 プロジェクトを分かりやすくご紹介します。

政策改革プロジェクト通信

政策改革本部 5年間の取組み

(5) 子育て支援

2019年3月27日

総集編 第5号

政策 前回の通信では、「(4)公共施設」についてご紹介しました。
改革 今回のテーマは、「(5)子育て支援」についてです。

これまで5年間に渡って政策改革本部で取組んできた各テーマについて、プロジェクトを実行するまでの流れと、どのような成果につながったかを具体的な事例とともに詳しくご紹介していきます。



プロジェクト通信総集編【初回のテーマ】
(1)テーマの設定から取組みの実行まで

政策改革本部で取組んだテーマ

(2)医療・介護連携

(3)新型ICT

(4)公共施設

【今回のテーマ】

(5)子育て支援

(6)自律改革

(6)公民連携

プロジェクトを実行するまでの流れ

① テーマ(分野)を決定する

② テーマに対する問題意識を整理する

③ 現状把握を行う (現状はどのようなか既存のデータを確認する)

④ 現状分析を行う (データを加工して指標化する, 傾向を確認する)

⑤ 現状評価を行う (あるべき姿と現状を比較。本当はどうあるべきか)

⑥ 解決すべき課題を設定する

⑦ 課題解決のための枠組み(体制, 目標, 取組み, スケジュール等)を作る

⑧ 課題解決のための具体的な取組み(プロジェクト)を実行する

成果

取組みの結果、
どのような成果につながったか

政策改革

テーマ「子育て支援」におけるプロジェクトの展開

2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
(1) 複合施設の点検	(2) 単独施設の点検	フォローアップ	(4) 公共施設の質の向上の取組み拡大	
●東区役所からスタート	I サービス改善 II 子ども対応 III 施設予約の改善		I 体育施設, 市民会館・ホール (施設改善) II 体育施設 (機能充実)	
	(3) 図書室の有効活用		(5) 施設経営のあり方	
			●指定管理, 業務委託	
	子ども施設の質の向上	(1) 子ども施設の質の向上 (児童館と子どもの遊び場, 子育て支援センター)		
		(2) 子育てしやすさの評価向上		
			(3) 子ども施設の質の向上 (保育園)	

テーマ「子育て支援」では、「子ども施設の質の向上」と「子育てしやすさの評価向上」に取り組みました。

「子ども施設の質の向上」では、子育て中の親や子どもにとって利用しやすい施設とするために、児童館や子育て支援センターを対象に、施設の利用者へのインタビューやアンケートによる施設改善に取り組みました。

さらに、施設の数が多く、多くの子どもが利用する保育園へ取組みを拡大し、保育士の事務的な業務の改善により保育の時間を確保し、保育士の業務の満足度(ES)の向上による保育の質の向上に取り組みました。

また、「子育てのしやすさの評価向上」では、新潟市を子育てしやすい場とするために、子育て中の親について、市民・地域・企業が理解、応援することに取り組みました。

※なお、子ども施設の質の向上の取組みは2015年度に「(4) 公共施設」の取組みとして取り組んだ後、2016年度から「子育て支援」の中で子ども施設の質の向上と子育てしやすさ評価向上に取り組むこととしました。

児童館と子どもの遊び場

及び

子育て支援センター

① テーマ(分野)の決定

② テーマに対する問題意識を整理する

政策 改革

前号「(4) 公共施設」において、各区複合施設のサービス改善の取組みを行う中で、**子育て中の親と子どもにとって利用しにくい設備やサービスがあることがわかりました。**

●一般利用者起点

①主要幹線道路等の案内標識の不備(施設の場所が分かりにくい)



②ビラ, チラシ, ポスターの掲示が乱雑, 情報量が多い



③利用者の通る目立つ場所に, 施設備品や不要物が保管されている



問題意識

子育て中の親と子どもにとって 利用しにくい設備やサービスがある

●子育て中の親起点・子ども起点

④図書館(室)に, 子ども用のスペースが設置されているが, 一般との間に仕切り無く, 音が筒抜けになってしまう(親子が利用しにくい)



⑤飲食可能なフリースペースに, 子ども用椅子等の設置がない



- ③ 現状把握を行う (現状はどのような既存のデータを確認する)
- ④ 現状分析を行う (データを加工して指標化する, 傾向を確認する)
- ⑤ 現状評価を行う (あるべき姿と現状を比較, 本当はどうあるべきか)

政策改革

まず子育て中の親や子どもが利用する施設である「児童館と子どもの遊び場」17施設と、「子育て支援センター」44施設を対象にどのような問題があるのか調査しました。

一 市民が利用する公共施設一

【このプロジェクトの対象は、未就学児及び小学生とする】

	特定の市民が利用	不特定の市民が利用（誰でも日常的に利用できる）
子どものための施設	小学校 幼稚園 放課後児童クラブ ※1 保育園	児童館と子どもの遊び場 17 ※2 地域子育て支援センター 44
上記以外	病院	体育施設 市民会館・ホール 観光施設等 美術館・博物館等 公民館 地域活動拠点 高齢者福祉施設 保健福祉センター 図書館（図書室） 行政窓口

「サービス改善」
実施対象施設
【359施設】

プロジェクト通信
(4)公共施設

「質の向上」
実施対象施設
【61施設】

（出典）2018年9月 政策改革本部会議資料 「子ども施設の質の向上」の一部抜粋，一部加工

※1...公立保育園を対象としている

※2...大畑少年センター

政策改革

具体的には、既に施設で行われていた利用者アンケートの結果を確認しました。しかし、アンケートでは、利用者からの不満や苦情は少なく、具体的な要望の把握に至っていません。そのため、政策改革本部事務局で利用者インタビューを行いました。

既存調査結果の確認	○児童館及び子どもの遊び場 アンケート結果等	1. 豊栄児童センター(北) 2. 三ツ森児童館(北) 3. 葛塚東児童館(北) 4. 早通児童センター(北) 5. わいわいひろば(東) 6. 市児童センター(中央)
	○子育て支援センター アンケート結果等	7. おひさま広場(北) 8. こすもすどりいむ(中央) 9. 育ちの森(秋葉) 10. 愛らんど(西) 11. ほほえみ(西)
	○市長への手紙	12. あいあい 13. こども創造センター 14. その他施設が特定されないもの
(今回実施) 予備調査	●子育て支援センター (事務局による現地インタビュー)	(9)育ちの森(秋葉) 15. どんぐり(秋葉)
	●民設民営の居場所 (事務局による現地インタビュー)	16. 子育てサロンBranchi(中央) 17. マザーズフレンドクラブ(中央) 18. ドリームハウス(西)
	●その他 (事務局による現地インタビュー)	19. 子育てなんでも相談センターきらきら

【現状把握①】

既存の利用者アンケートの結果を確認しました。

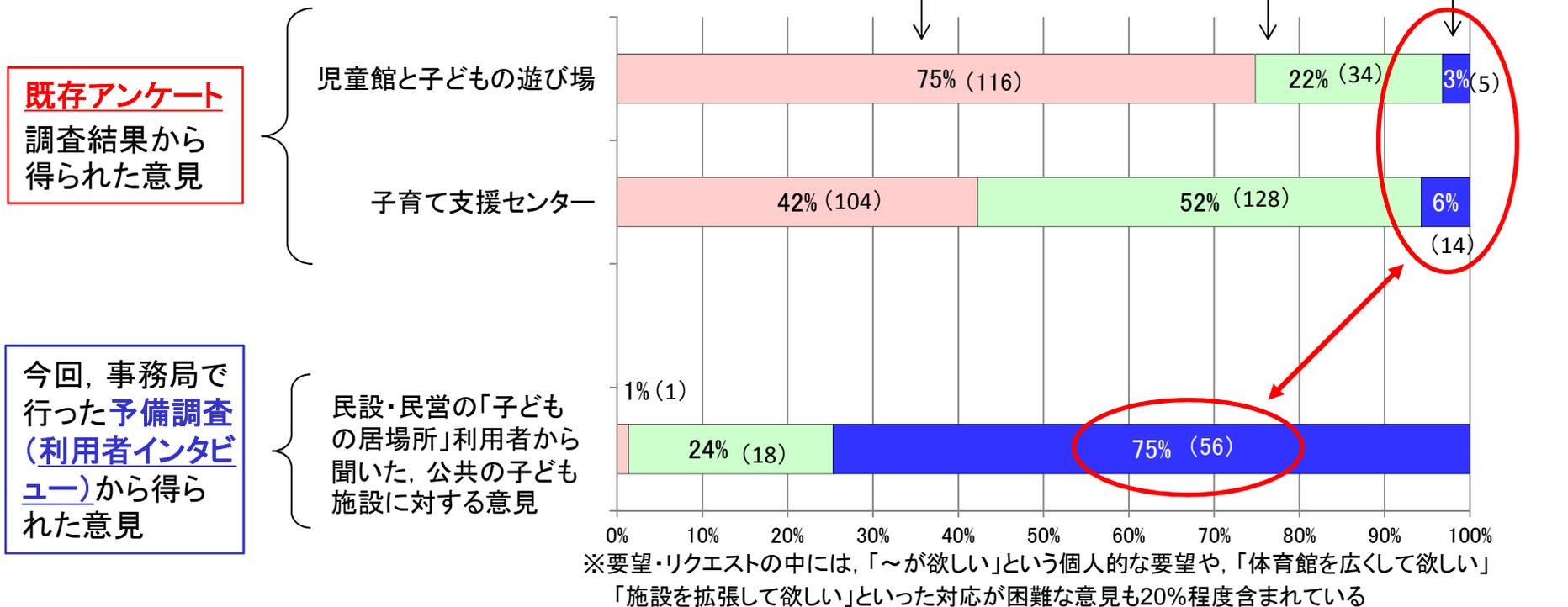
【現状把握②】

政策改革本部事務局にて、施設の利用者へ「施設の利用しにくかった点」について、インタビューを行いました。

政策改革

既存のアンケートでは、「不満・苦情」の割合が全体の1割未満であった一方で、インタビュー調査では、全体の7割以上という結果となり、子ども施設では利用者の意見を十分に把握できていない可能性があることがわかりました。

●子ども施設における利用者意見の分類



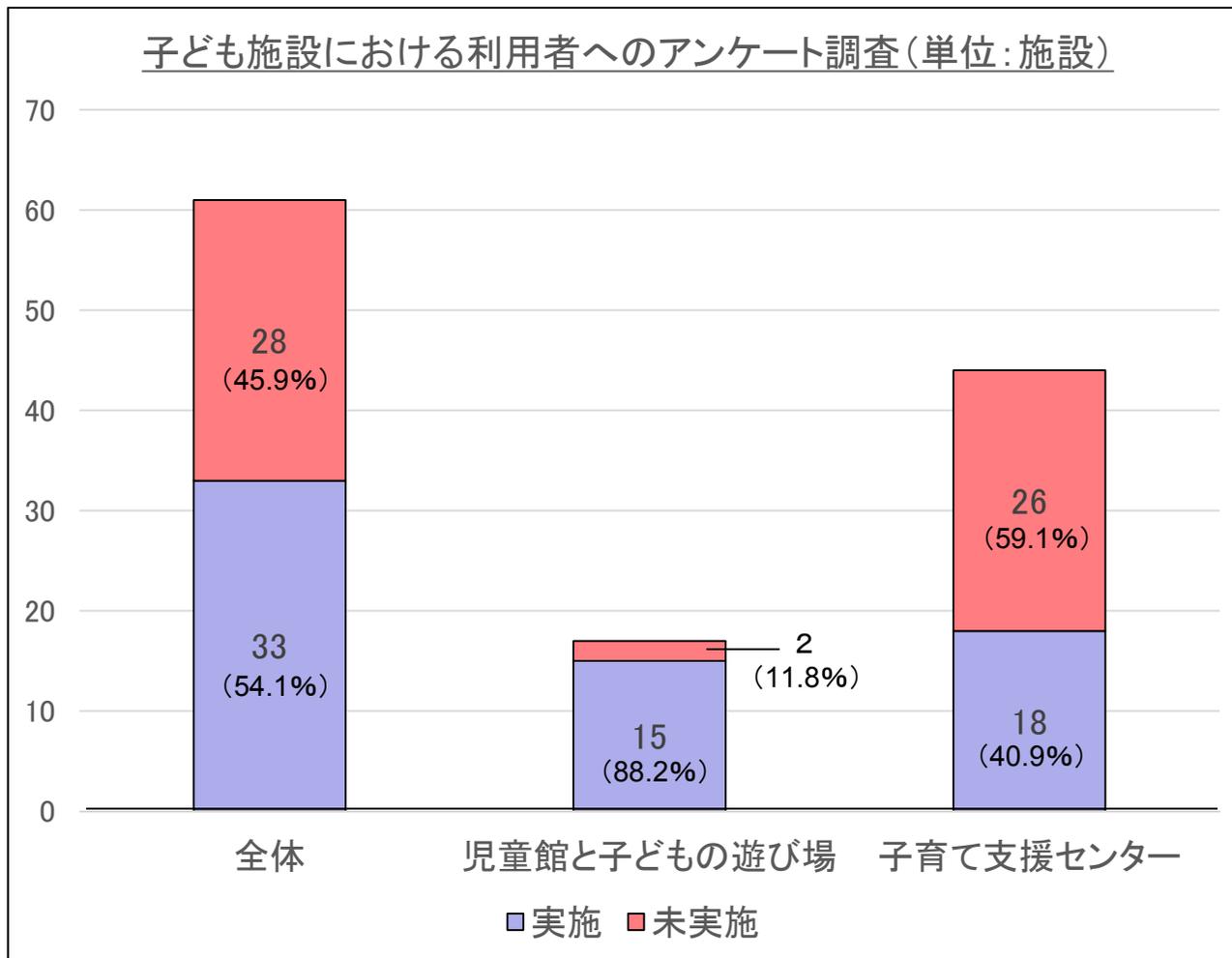
【現状分析】

利用者からの意見を「満足」,
「要望・リクエスト」,「不満・苦
情」に分類して比較しました。

【現状評価】

子ども施設では、利用者の不満
や苦情を十分に把握できていま
せんでした。

政策 さらに、各子ども施設のうち、どのくらいの施設で利用者アンケートが実施されているのか調査した
改革 ところ、約半数の子ども施設で行われていないことがわかりました。



【現状評価】

約半数の施設では利用者意見の把握が未実施となっており、**利用者意見が把握できていないことがわかりました。**

⑥ 解決すべき課題を設定する

⑦ 課題解決のための枠組みを作る
(体制・目標・取組み, スケジュール等)

⑧ 課題解決のための具体的な取組み(プロジェクト)
を実行する

政策 改革

前述した子ども施設への事前調査の結果から、全子ども施設で利用者へのインタビュー調査を実施し、さらに各施設で継続的な改善活動が行われる仕組みづくりを行うこととしました。

現状把握・分析・評価から明らかになった問題

●各施設は、利用者の不満や要望を十分に把握できていない可能性がある

(子ども施設で行われている、既存の利用者アンケート調査では、利用者の苦情や要望の割合は、全体の1割未満だったが、政策改革本部事務局が実施した利用者インタビューでは、全体の7割以上であった)

●約半数の施設では、利用者意見を把握するためのアンケートが実施されていない

取り組むべき課題

○子育て中の親や子どもにとって利用しやすい施設にするために、利用者の不満や要望を適切に把握し、対応する

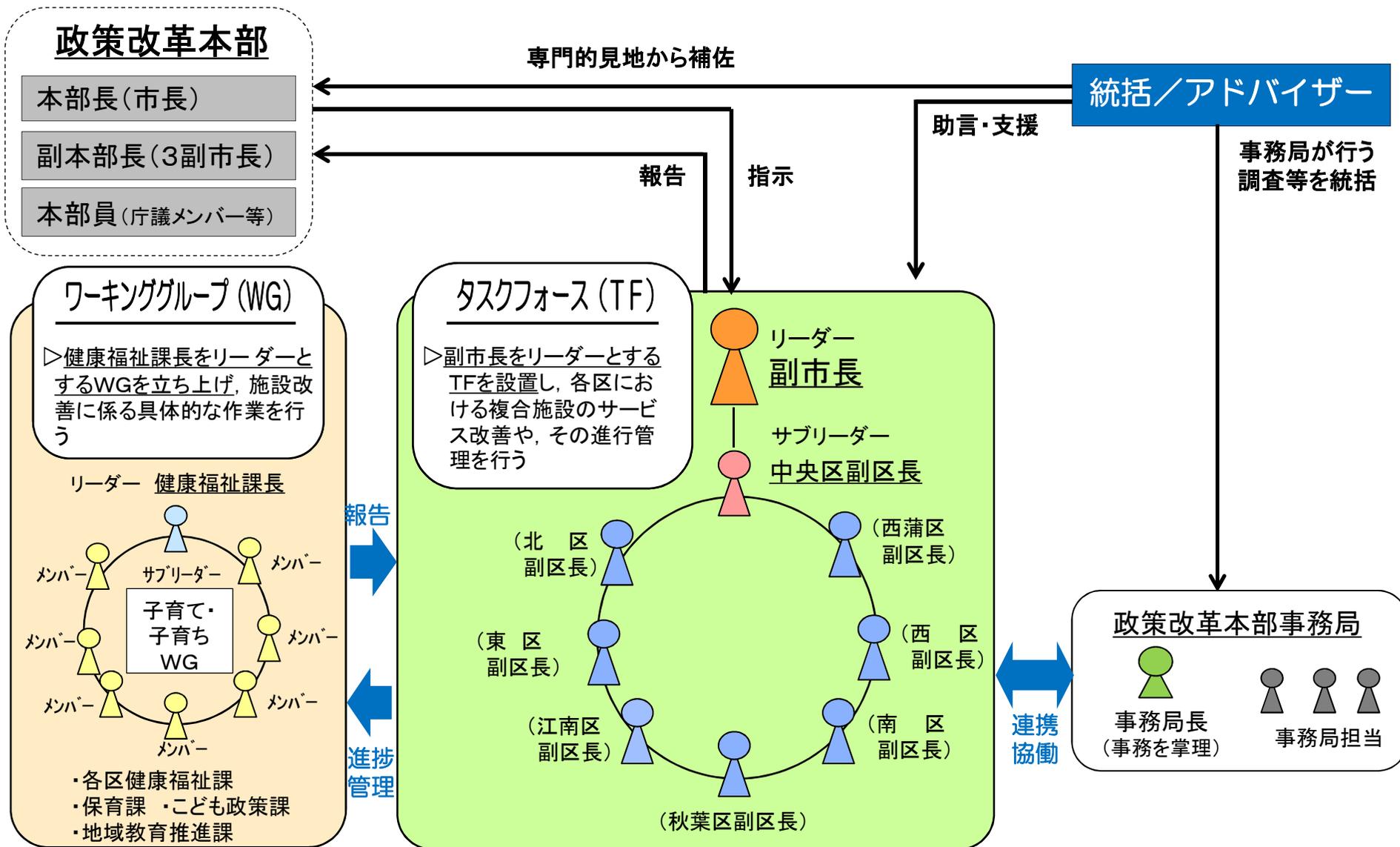
具体的な取組み

○全61の子ども施設で利用者から直接意見を聴き取るインタビュー調査と、アンケート調査を実施し、意見・要望を把握して改善に取り組む

○施設において、継続的な改善が行われる仕組みを構築する

政策改革

子育て支援の取組みを確実に進めるため、組織横断的な体制として「タスクフォース」と共に「ワーキンググループ」を設置し、連携しながら取組みを進めました。



政策 改革

利用者の意見を聞くため、全61の子ども施設を対象に施設の職員と施設所管課職員による利用者インタビューとアンケートを実施しました。その結果、2015年度では、2,747人から1,936件の不満や要望を得ることができました。

【実施概要】

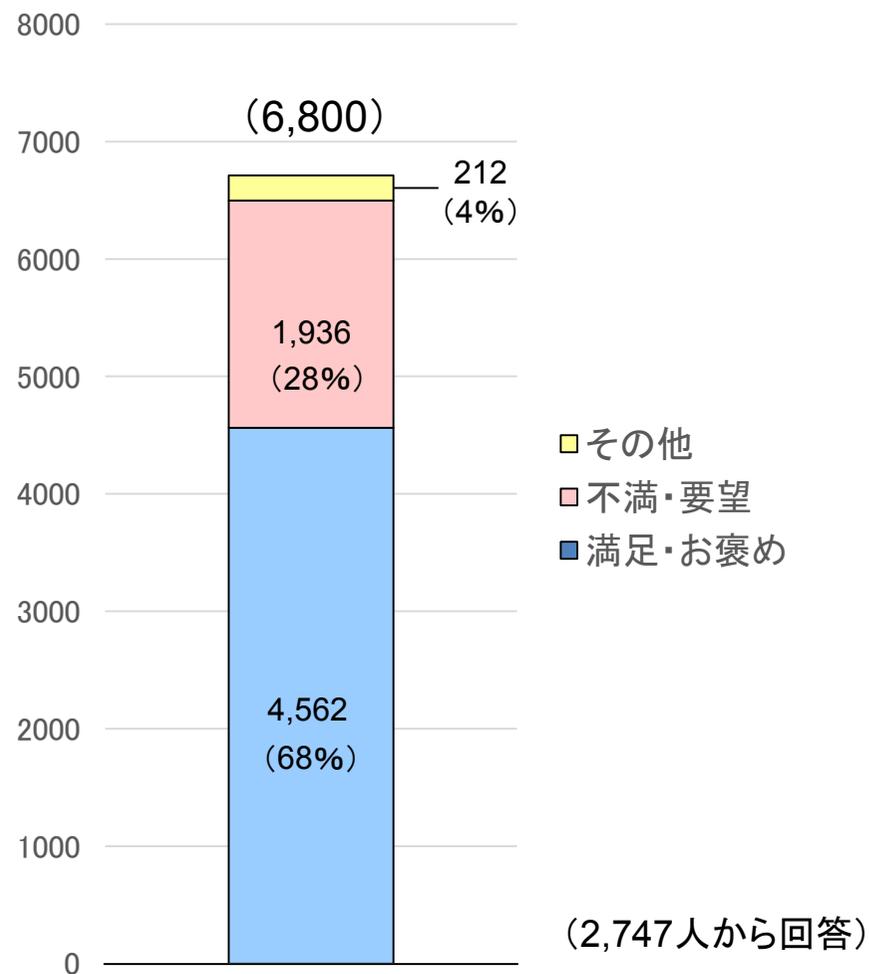
1. 対象施設	児童館と子どもの遊び場(児童館):17施設, 子育て支援センター(支援C):44施設 ※それぞれの施設を利用する保護者及び小学生
2. 実施手法	・各施設のスタッフ及び施設所管課の職員が、 インタビューにより実施 ・併せてアンケート調査を実施
3. 実施期間	・インタビュー :10月中の1週間 ・アンケート :インタビュー終了後~11月末
4. 目標数	各施設の1週間の利用者数の20%を目標とした(インタビュー)

(調査項目)

1	清潔さ(トイレ, オムツ替え, 授乳室など)
2	スタッフの対応
3	施設利用時のルール
4	開館日・時間
5	飲食
6	年齢によるゾーン設定
7	イベントの定員, 内容
8	その他

【実施結果】

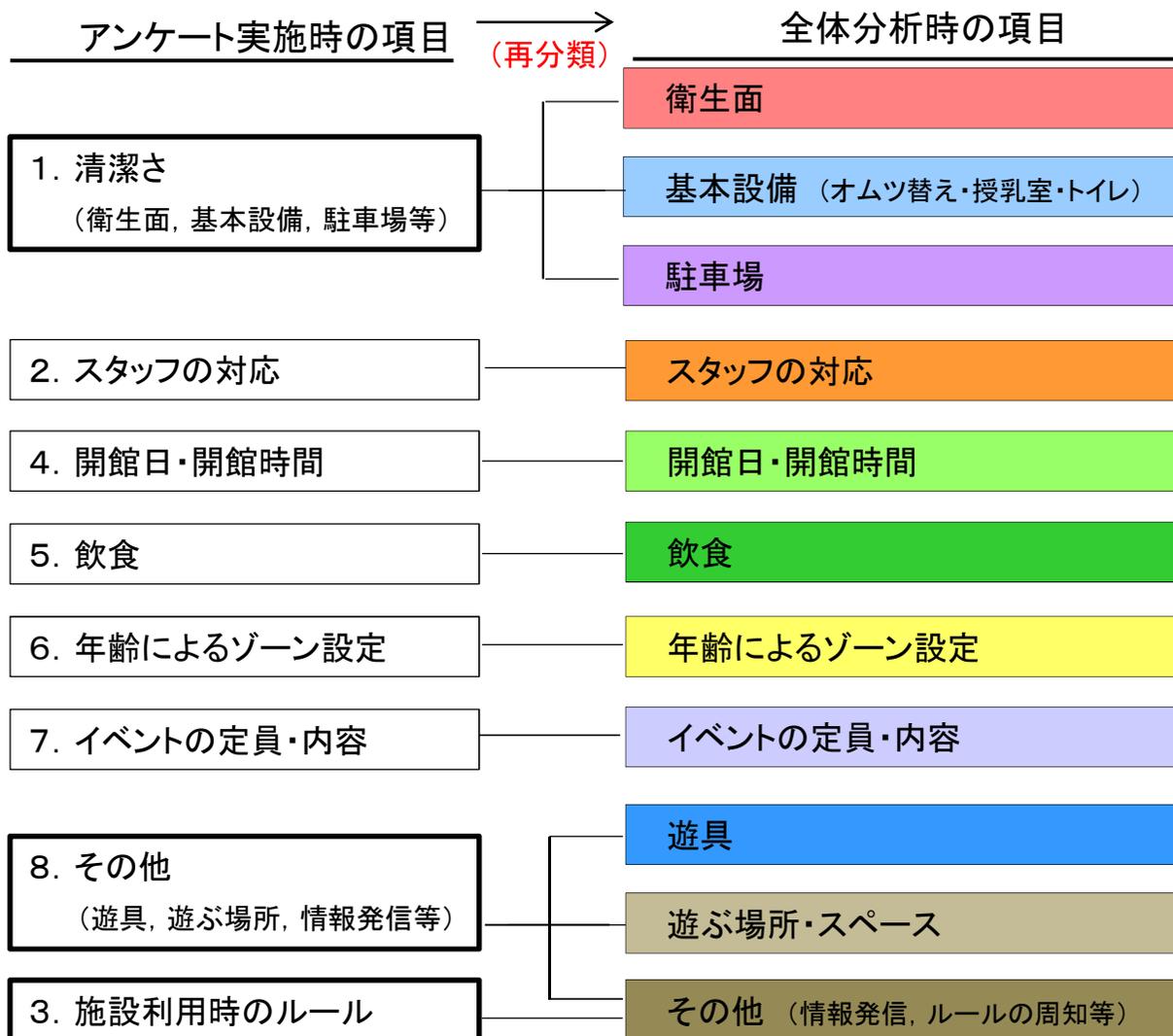
2015年度 子ども施設における利用者インタビュー/アンケート(件)



政策改革

アンケート等で得た不満や要望について、より詳細に分類するとともに、改善のための責任の所在を明確にしました。

1. 分類項目



2. 改善レベル

- | |
|-----------------------------------|
| 【A】
個別施設で対応する・経費は不要なもの |
| 【B】
個別施設で対応する・経費が必要なもの |
| 【C】
施設として方針検討が必要なもの |
| 【D】
市役所・区役所レベルで対応が必要なもの |

政策 改革

全意見の約6割はAとBに分類される各施設で「すぐに対応できる」ものでした。

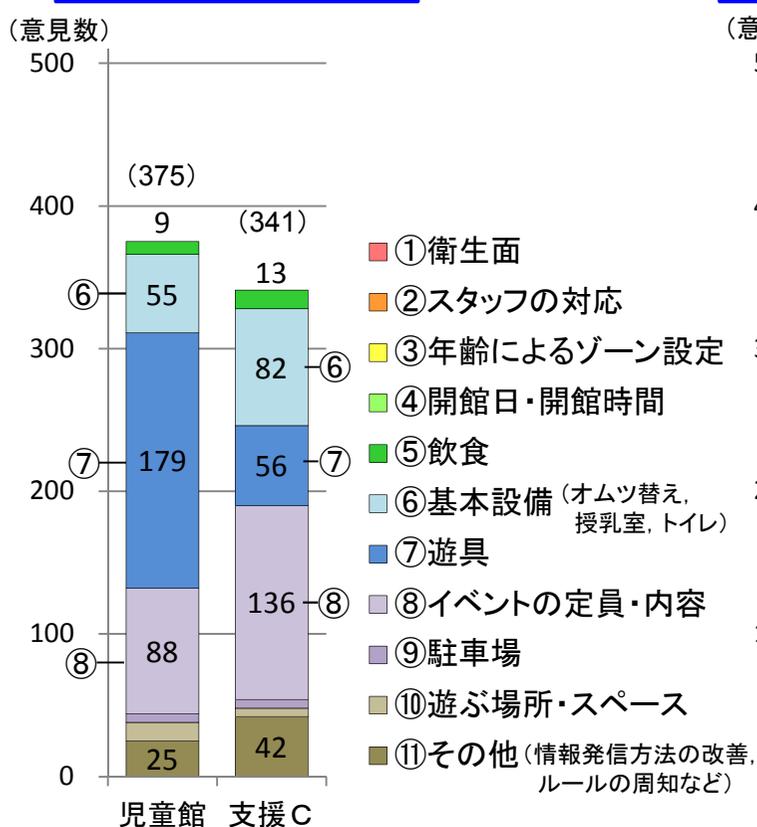
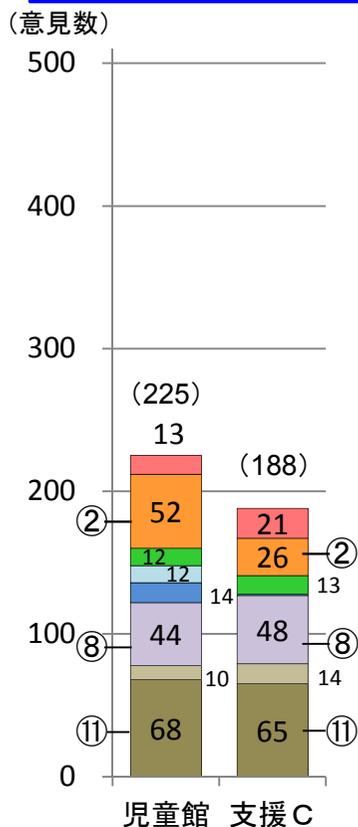
すぐに対応できる 【1,129】(約57%)
(改善にあたり、根底となる方針の検討は不要)

A 予算不要 【413】

B 予算必要 【716】

個別施設の課題

個別施設の課題



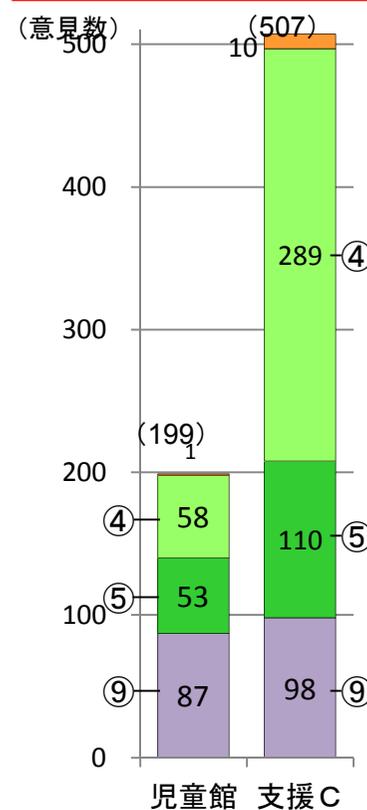
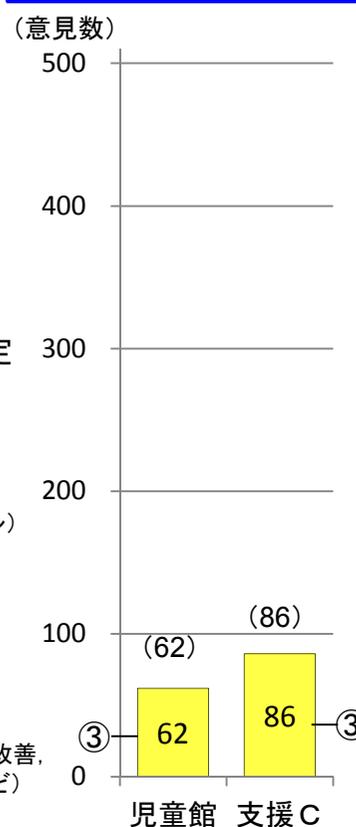
対応に時間を要する 【854】(約43%)
(改善にあたり、根底となる方針の検討が必要)

C 予算不要 【148】

D 予算必要 【706】

個別施設の課題

各区共通の課題



(出典) 2015年度 新潟市子ども施設利用者インタビュー調査結果より

政策 一方で、すぐに対応できるようなサービスでも、施設によっては提供できていないところもありました。
改革 そのため、提供するサービスレベルの一定の水準を確保するなどの取組みが必要でした。

ーサービスレベルのバラつき事例

衛生面

満足意見

- トイレがきれい、ゴミが落ちていない、清掃が行き届いている
- 子どもが舐めたおもちゃをきちんと消毒してくれる

改善要望

- 髪の毛が落ちている、遊具が臭い、手洗い場の排水が詰まっている、清掃が不十分
- 舐めたおもちゃなどを入れる箱がすぐにいっぱいになり、うまく機能していない

スタッフ対応

満足意見

- 初めてでも優しく対応して下さり気持がよい、明るく話かけてくれて子どもも喜んでいる
- 先生が遊び場に出て一緒に遊んでくれるので、親も楽しい気分になる

改善要望

- よく利用しているお母さんたちとだけ長々としゃべっていることが多々ある
- 乳幼児と一緒に遊ぶ先生がいた方がよい。今まで遊んでもらったことは1度もない

イベント開催

満足意見

- イベントの内容が充実している、毎月工夫されている
- 特別な日だけでなく、必ず毎日皆で歌ったり踊ったり親子遊びの時間があるのが良い

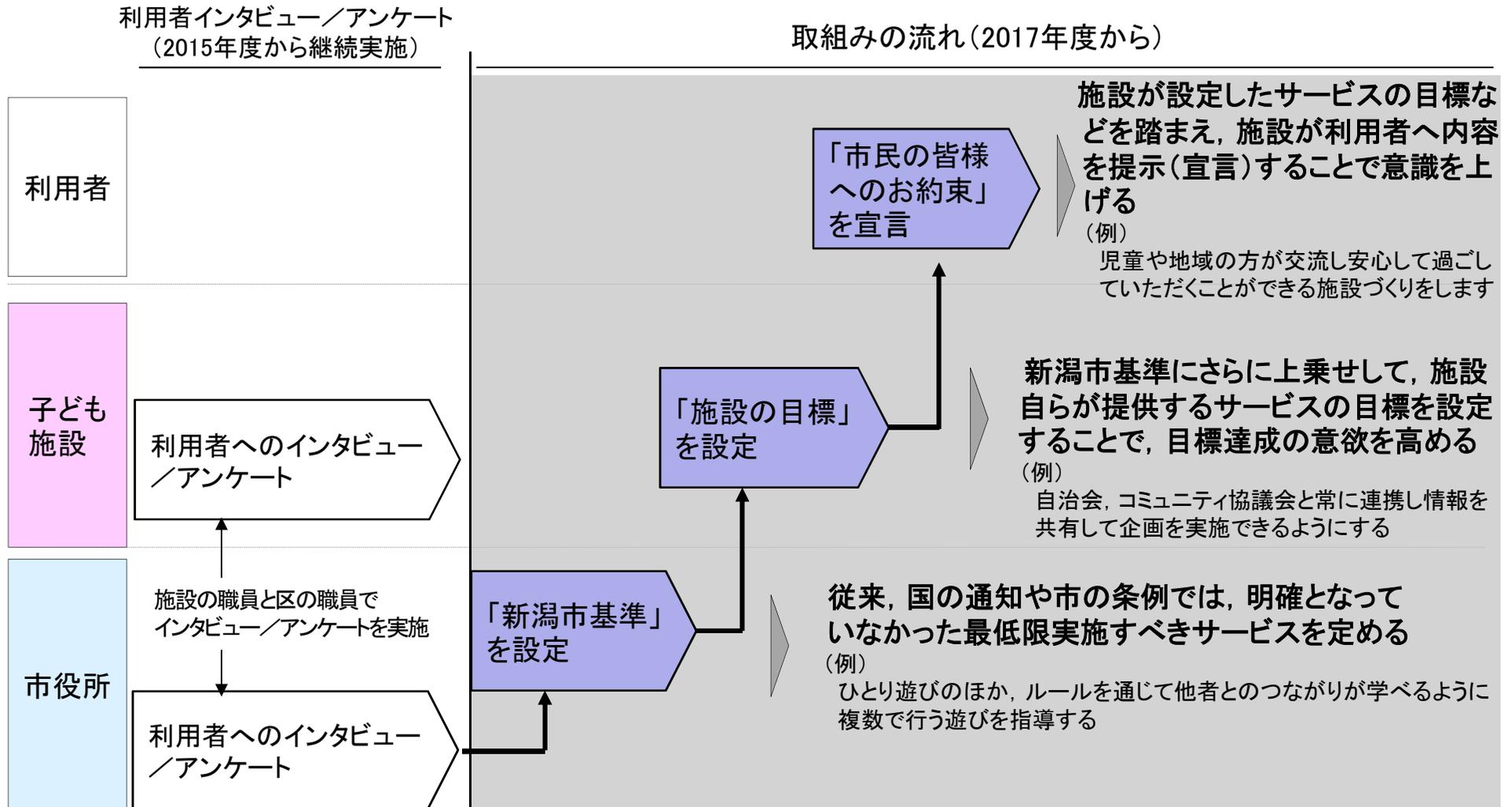
改善要望

- 定員が少なく、しめきりが早い
- イベントの内容がマンネリ、イベントに来るメンバーがいつも同じ

政策改革

新潟市基準を定め、最低限提供すべきサービスレベルを明確にしました。さらに各施設が基準に上乗せして目標を定め、それを利用者へ示すことで市全体のサービス水準の引き上げに取組みました。

利用者インタビュー／アンケートから得た意見を基に、「新潟市基準」を市が定め、各子ども施設が基準に上乗せする形で「施設の目標」を設定し、「市民の皆様へのお約束」として利用者へ掲示(宣言)しました。

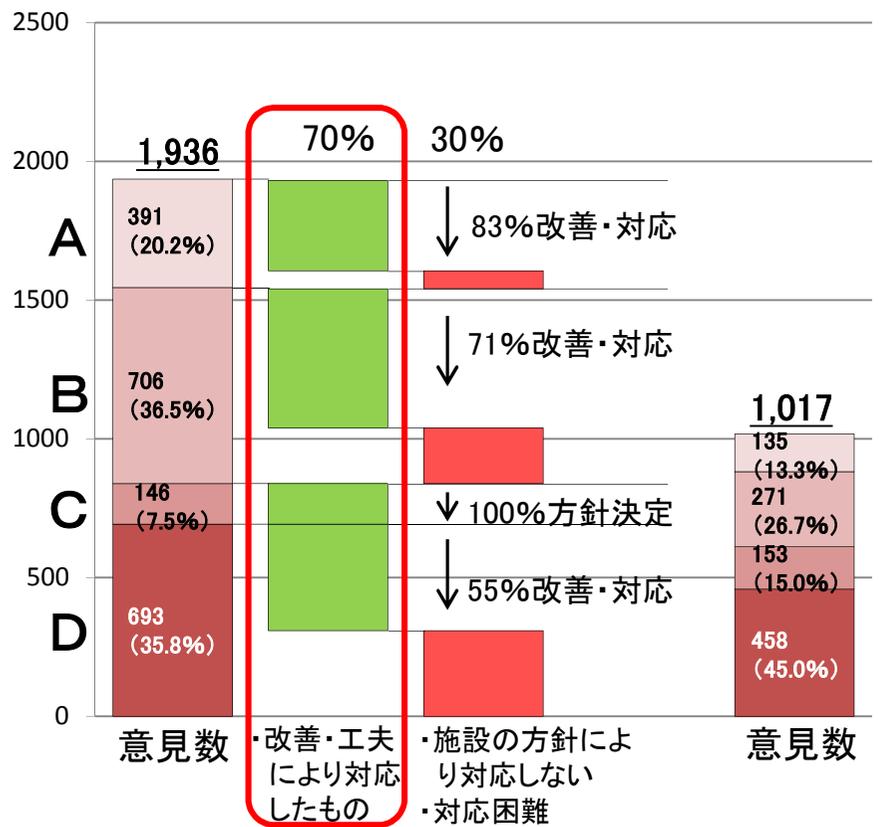


プロジェクトの成果

政策改革

利用者へのインタビュー等で得た、具体的な要望について改善に取り組んだ結果、2015年度と2016年度の比較では、総意見数は2倍になっている一方で、「お叱りや要望」の件数は半減しました。

2015年度 利用者からの要望における改善状況



2015年度※

2016年度

- A: 個別施設で対応する・経費は不要なもの
- B: 個別施設で対応する・経費が必要なもの
- C: 施設として方針検討が必要なもの
- D: 市役所・区役所レベルで対応が必要なもの

2015年度と2016年度で把握した利用者意見数の比較

結果	2015年度	2016年度	増減
対象者数	2,747人	1,836人	△911人
インタビュー	1,848人	1,072人	△776人
アンケート	899人	764人	△135人
意見総数	6,800件	12,399件	5,599件
お褒め (構成比)	4,652件 (68%)	11,256件 (90%)	6,694件 (22%)
お叱り又は要望 (構成比)	1,936件 (28%)	1,017件 (8%)	△919件 (△20%)
その他	212件 (4%)	126件 (2%)	△86人 (△2%)
1施設当たりの意見数	111.5件	203.3件	91.8件

- 実施手法 ・施設職員と施設所管課職員による利用者へインタビュー
・意見箱によるアンケート
- 対象者 施設を利用する保護者と小学生
- 調査内容 施設に改善してほしいこと、困っていることなど

(出典) 2017年5月 政策改革本部会議資料「子育て支援のあり方」の一部抜粋、一部加工

政策 改革

改善事例

課題Aの事例

(衛生面を心配する利用者がいた)

【要望】

こどもが舐めたおもちゃを入れるかごがあるといい

【対応】

専用のかごを用意した



課題Bの事例

(設備に不満がある利用者がいた)

【要望】

トイレが暗い, 怖い

【対応】

トイレの改修を行い, 明るい雰囲気になるようにした



(出典) 2017年5月 政策改革本部会議資料「子育て支援のあり方」の一部抜粋, 一部加工
※地域子育て支援センターぴよぴよ(北区)提供, 地域子育て支援センターぴよぴよ(西蒲区)提供
※葛塚北児童館(北区)提供

政策 改革

全市的な方針の検討が必要なものや、多くの経費が必要なものも、施設の工夫によって対応しました。

課題Cの事例 (施設のルールについての意見があった)

子どもの年齢によって遊べるスペースや利用時間を区切るかどうか(年齢によるゾーン設定)

ゾーン設定を望む意見

ー赤ちゃんのところに大きい子が遊ぶとぶつかって危ないと思う。場所が分けてあると良い

ゾーン設定を望まない意見

ー年が違う兄弟を一緒に連れていけなくなるので、利用日を年齢で制限しないでほしい

【対応】

ゾーン設定に対する利用者意見のあった42施設において施設の方針を決定した

ー利用者間でも相反する意見が併存する課題については、今後も継続的に意見を聞きながら、より良いゾーン設定のあり方について検討を行っていく必要がある

(単位:施設)

ゾーン設定	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	全市計
有り	4	0	2	2	1	0	3	1	13
無し	4	4	3	0	2	7	3	6	29

課題Dの事例 (多額の費用や人員の手配が必要になる解決が難しい要望もあった)

直接的な解決ができなくとも、工夫や代替策によって対応を行った

【要望】

- ・駐車場があるとよい
- ・駐車場を広くしてほしい

【対応】

- ・近隣の駐車スペースを案内
- ・駐車方法を変えて、駐車可能な台数を増やした

【要望】

- ・土日利用したい
- ・開館時間の延長希望

【対応】

- ・利用者にニーズに応じた別の施設を案内した
- ・地域の小学校の振替日に定休日を臨時開館した

政策 改革

これまでの取組みを整理し、各子ども施設による利用者意見の把握と施設改善が継続的に行われる仕組みを構築しました。

【施設改善を行うための仕組み】

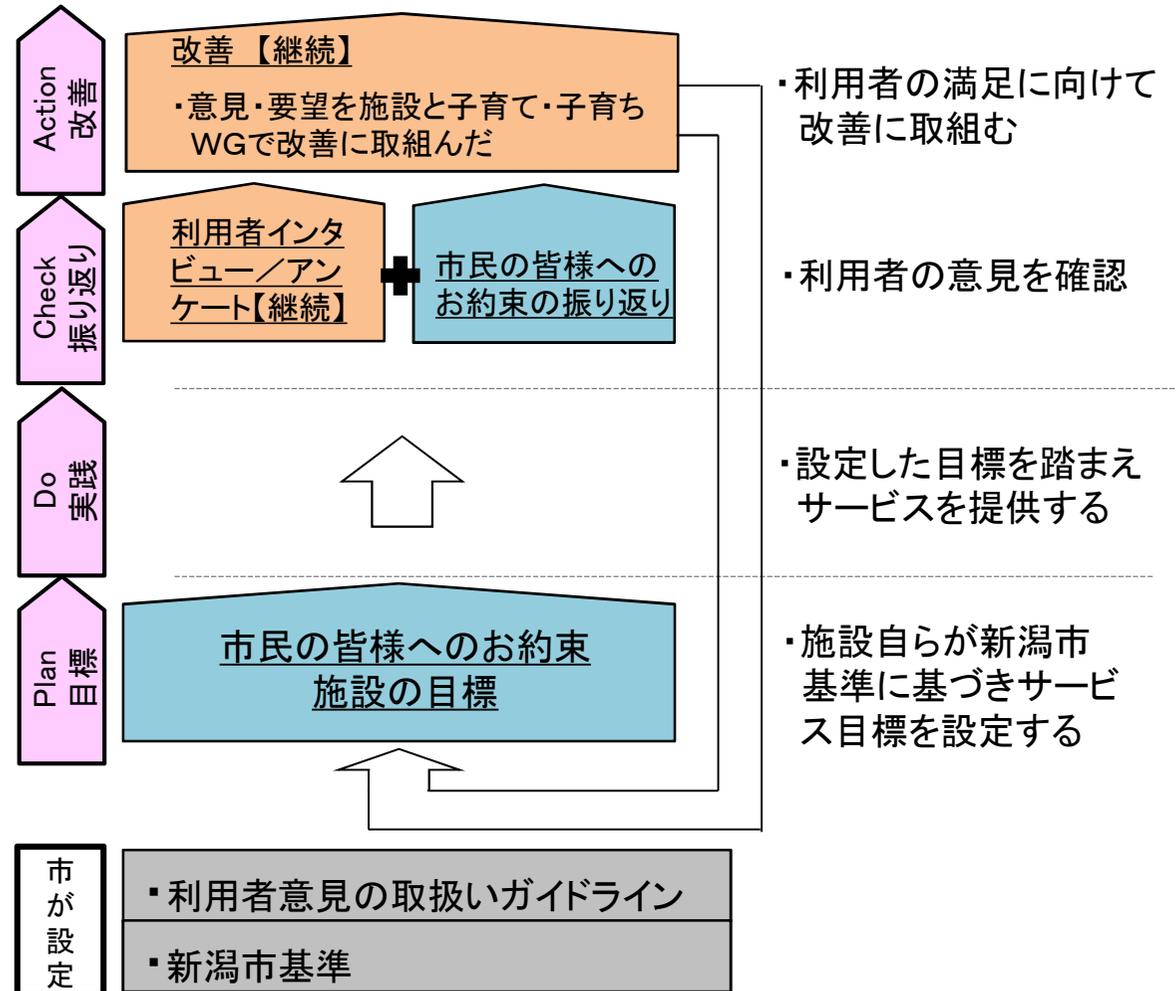
利用者意見を把握する仕組み

- ・利用者インタビューの仕組みと、得た意見の取扱いについて整備
(『利用者意見の取扱いガイドライン』を要綱として規定)

継続的に施設改善を行う仕組み

- ・新潟市基準
- ・施設の目標
- ・市民の皆様へのお約束 の設定

【仕組みの活用】



※各施設は、目標の設定から利用者意見の改善までを繰り返し取り組む

政策 改革

新潟市基準の抜粋

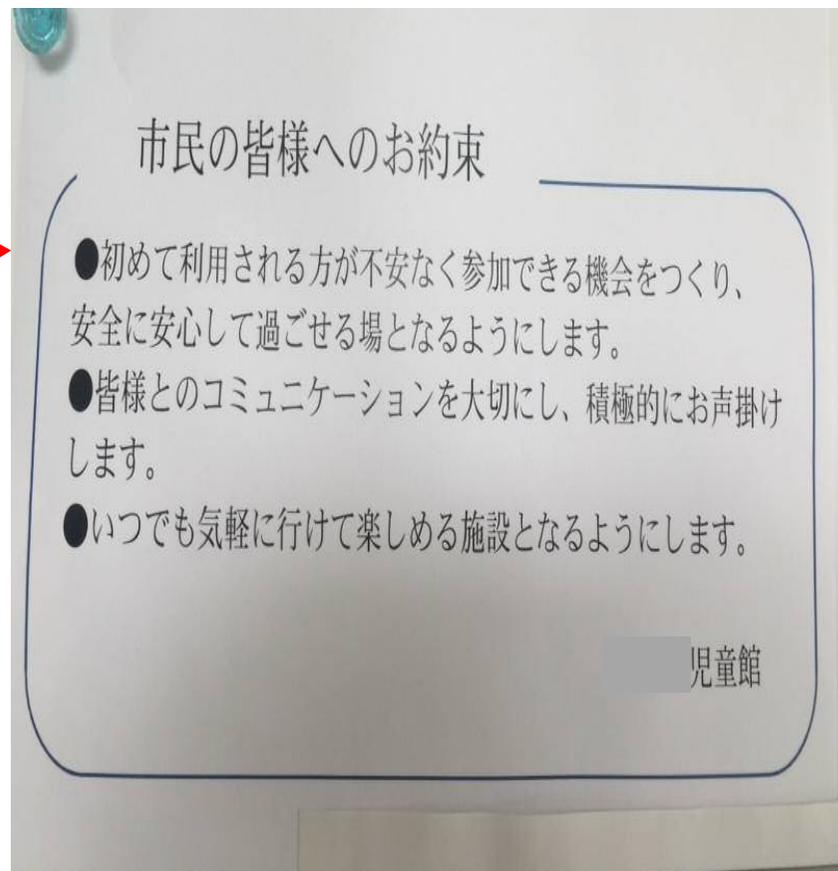
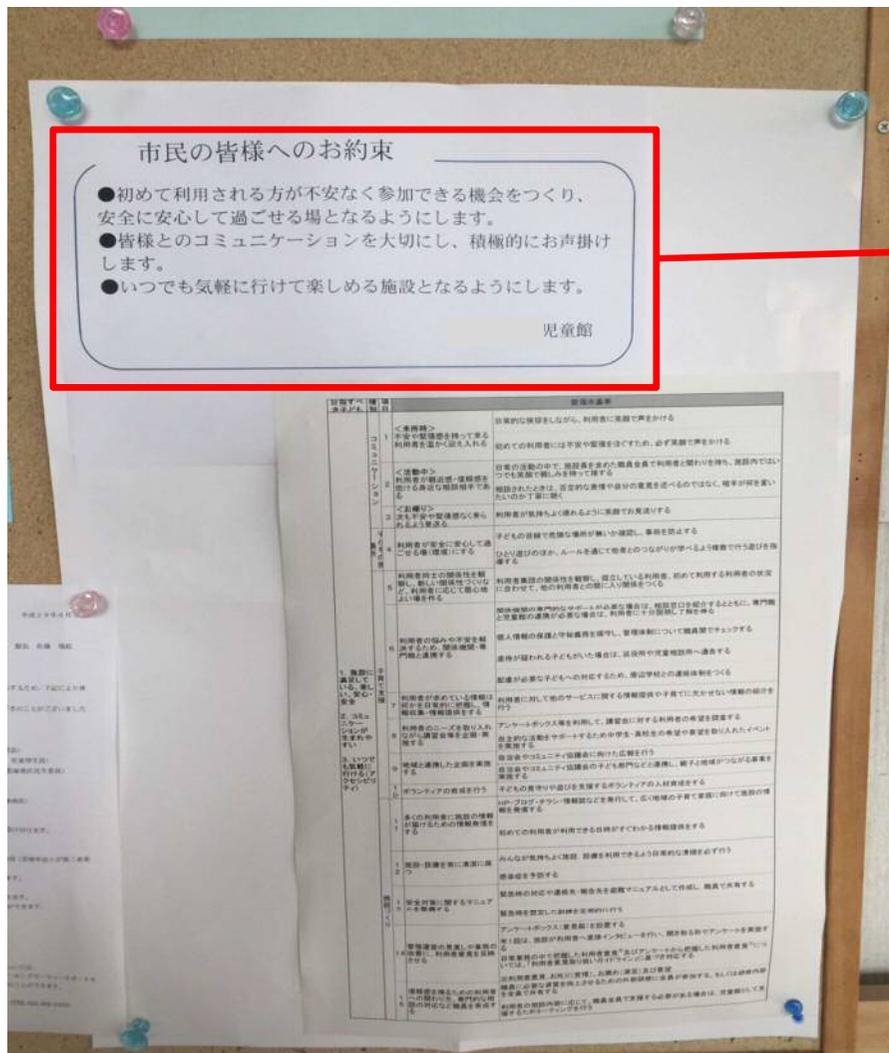
『コミュニケーション』の項目では、インタビューでの意見を踏まえ、来所者に笑顔で対応することを基本とするサービス基準を定めました。

インタビューで得られた利用者の生の声 ○:満足意見 ×:改善要望	新潟市基準		
<p>○来ると必ず声をかけてくれるのでうれしい</p> <p>○初めて利用するときはずっと不安だが、こちらのスタッフはこまめに声をかけてくれたのでよかった</p> <p>○初めての利用で館内案内してくれるところがよかった</p> <p>○初めて来る方への説明や話しかけをされていて初心者でも利用しやすいと思う</p> <p>×初めて来たとき誰もいなかったり、声かけがないのでどう入っているかが分からない。困っていたら声かけしてもらえるとありがたい</p>	コミュニケーション	<p>＜来所時＞ 不安や緊張感を持って来る利用者を温かく迎え入れる</p>	<p>日常的な挨拶をしながら、利用者には笑顔で声をかける</p> <hr/> <p>初めての利用者には不安や緊張をほぐすため、必ず笑顔で声をかける</p>
<p>○車を止めて入り口に行くと、利用者カードを準備して温かく迎えてくれる。育児のことで悩んでいけば、気軽に相談できる。月に1回の育児相談会よりも、子育て経験者の先生に話を聴くほうが安心できる</p> <p>○笑顔で話しかけてもらい、こどもが喜んでくれるようになった。相談しやすく、私(母親)も気持ちになる</p> <p>×スタッフで一人だけですが、話しかけづらい雰囲気の人があります。その方は子にも親にも事務的な対応で柔軟性に欠けている</p> <p>×4、5回来ているが、スタッフをカウンター以外であまり見ない</p>		<p>＜活動中＞ 親子が親近感・信頼感を抱ける身近な相談相手である</p>	<p>施設内ではいつでも笑顔で親しみを持って接する</p> <hr/> <p>相談されたときは、否定的な表情や自分の意見を述べるのではなく、相手が何を言いたいのか丁寧に聴く</p>
<p>○明るく声をかけてくれるので来やすい。初めて来たときも声をかけてくれたので次も来ようと思った</p> <p>○子どもだけでなく親自身のことについてもいろいろ話を聞いてくれたり相談に乗ってもらえるので助かります</p>		<p>＜お帰り＞ 次も不安や緊張感なく来られるよう見送る</p>	<p>利用者を笑顔で温かくお見送りする</p>
		<p>子どもの居場所 子育て支援 施設づくり</p>	<p>・ ・ ・ ・</p>

政策 改革

すべての子ども施設で「市民の皆様へのお約束」を作成し、利用者の方々に見ていただけるように掲示をしています。(各施設で毎年見直し、再設定を行っています)

【市民の皆様へのお約束の事例】



子育てのしやすさの評価向上

① テーマ(分野)の決定

② テーマに対する問題意識を整理する

政策改革

子育てについて、政令市との比較データや雑誌での評価と、市民の声では、かなりの隔たりがありました。

政令市の調査

◎ 保育施設等利用率	1位
◎ 就学前児童1,000人当たりの保育施設数	1位
◎ 保育施設等待機児童数	0人
◎ 就学前児童10,000人当たりの病児保育施設数	2位
◎ 就学前児童1,000人当たりの地域子育て支援センター数	4位

雑誌(日経DUAL)の調査

日経DUAL
自治体の子育て支援制度に関する調査
「共働き子育てしやすい街ランキング」

2016年 20位/147団体

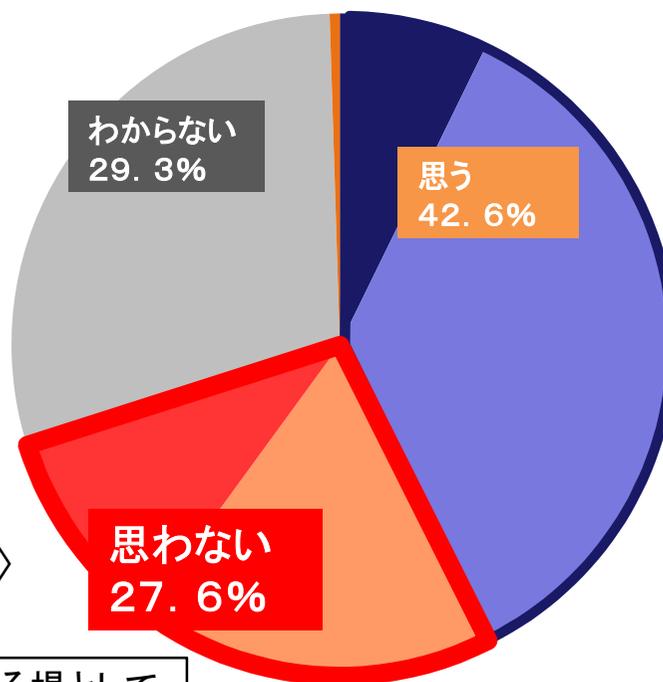
この原因は何か



市民からの声

まち・ひと・しごと創生に関するアンケート調査
(結果報告書)2015年度※2

子育てする場として新潟市は魅力的か



問題意識

新潟市は、他都市との比較においては、子育てをする場としてのランキングは高いが、市民からは否定的な意見も出ており、**ランキングの結果と市民が感じるものは異なるようでした。なぜ市民起点では、魅力的ではないという意見が約3割も出ているのか**

市内在住の市民(22歳~49歳)
無作為抽出
対象: 在住者全体(n=1,144)

(出典) 2017年5月 政策改革本部会議資料 - 子育て支援のあり方より抜粋

※1: 2016年度新潟市政策改革本部調査時点

※2: 新潟市ホームページ: 2015.11新潟市まち・ひと・しごと創生に関するアンケート調査(結果報告書) <http://www.city.niigata.lg.jp/shisei/seisaku/tihou/sosei/enpuete.html>

- ③ 現状把握を行う (現状はどのような既存のデータを確認する)
- ④ 現状分析を行う (データを加工して指標化する, 傾向を確認する)
- ⑤ 現状評価を行う (あるべき姿と現状を比較, 本当はどうあるべきか)

政策改革 まずは、行政サービスの点から新潟市を評価するため、各政令市の子育て関連サービスの調査、比較を行いました。
 他の政令市と比較して、新潟市が提供している子育て関連サービスは、充実していると言えます。

		札幌	仙台	さいたま	千葉	横浜	川崎	相模原	静岡	浜松	名古屋	京都	大阪	堺	神戸	岡山	広島	北九州	福岡	熊本	新潟	
預かる	保育施設(保育園)	△	◎	▲	△	○	△	△	○	▲	○	◎	○	▲	◎	▲	▲	○	△	◎	◎	◎
	入園率	△	▲	▲	△	▲	▲	△	○	▲	○	◎	◎	○	△	○	○	△	◎	◎	◎	◎
	保育士数	○	△	▲	▲	△	▲	△	◎	▲	△	◎	○	○	▲	◎	○	◎	△	○	◎	◎
	保育料①	◎	▲	○	▲	△	○	○	◎	◎	◎	▲	○	◎	△	▲	△	▲	△	△	△	○
	保育料②	○	○	◎	◎	○	○	△	○	△	◎	△	◎	△	▲	▲	◎	▲	▲	▲	▲	▲
	教育施設(幼稚園)	△	△	△	○	▲	▲	△	◎	◎	○	○	△	○	◎	◎	○	◎	◎	▲	▲	▲
	ファミサポ料金	○	○	○	○	△	○	○	○	○	△	○	△	○	○	○	○	○	△	◎	◎	○
	ファミサポ病児学童保育料金	有	—	有	—	—	—	—	有	—	—	—	—	—	有	—	有	有	—	有	有	有
	病児学童保育対象学年	◎	○	▲	▲	△	◎	△	▲	○	○	▲	◎	▲	○	△	◎	△	△	○	○	△
	病児保育	▲	▲	△	○	△	▲	▲	▲	△	○	△	◎	△	○	○	◎	◎	◎	◎	○	◎
楽しむ	子支援C数	◎	○	○	▲	△	△	▲	△	◎	○	◎	○	○	◎	△	▲	▲	▲	△	△	◎
	都市公園数	◎	◎	△	○	△	△	△	▲	△	▲	▲	▲	◎	○	▲	○	◎	○	○	○	◎
	同面積	◎	◎	▲	○	▲	△	▲	△	○	△	▲	▲	○	◎	◎	△	◎	△	○	○	◎
	SC数	◎	△	▲	○	△	▲	△	▲	▲	◎	△	◎	▲	◎	△	○	◎	○	○	○	◎
	プール	▲	○	△	○	○	△	△	◎	◎	◎	▲	△	△	▲	◎	○	◎	▲	▲	▲	○
	博物館	○	○	△	△	△	▲	▲	◎	○	○	◎	▲	▲	◎	◎	△	▲	▲	△	○	◎
	犯罪認知	○	○	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	▲	△	▲	▲	△	△	○	▲	▲	▲	○	○
成長する	訪問事業	◎	△	▲	△	▲	▲	▲	△	△	△	▲	▲	△	△	▲	▲	△	▲	▲	▲	○
	健診実施	○	△	○	△	△	◎	△	○	○	◎	○	△	◎	○	○	△	△	○	△	△	○
	医療助成①	▲	△	◎	◎	△	△	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	▲	▲	▲	▲	△	○
	医療助成②	▲	▲	◎	○	△	△	△	○	○	◎	○	▲	○	▲	○	▲	▲	▲	◎	○	○
	BPプログラム	-	-	-	-	○	○	-	○	△	○	-	○	○	◎	○	◎	-	○	○	○	◎
	小児医師	△	◎	▲	○	△	▲	▲	◎	▲	○	◎	△	▲	○	◎	△	○	○	○	◎	△
男性育休奨励金	有	-	-	有	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	有	

(出典) 2016年9月 政策改革本部会議資料「子育て世代から見た「子育てしやすさ」の評価向上」の一部抜粋、一部加工

※各政令市のHP上の数値、保育課作成資料等の数値について、評価が高いものから◎→○→△→▲の順で評価

政策 改革

子育て世代と接点を持つ有識者や子育て中のパパ・ママへインタビューを実施したところ、子育て中の親は、周囲に遠慮しているとの声を聴くことができました。

パパ・ママの声

実態

子育ての現状は「ママ」が主体

⇒パパの育児参加は増えているが、家事育児の分担はママが7～8割が多い

感じていること

「ママ」の悩みは身近なところにある

不安 … 「子どもの成長、育児方法があっているのか不安になる」

不満 … 「ずっと子どもと一緒になので、たまにはひとりで息抜きしたい」

負担 … 「子どもと一緒に外出するにはハードルが高い・多い、移動しづらい」

原因

周囲(世間)の不寛容と、引け目を感じての行動抑制

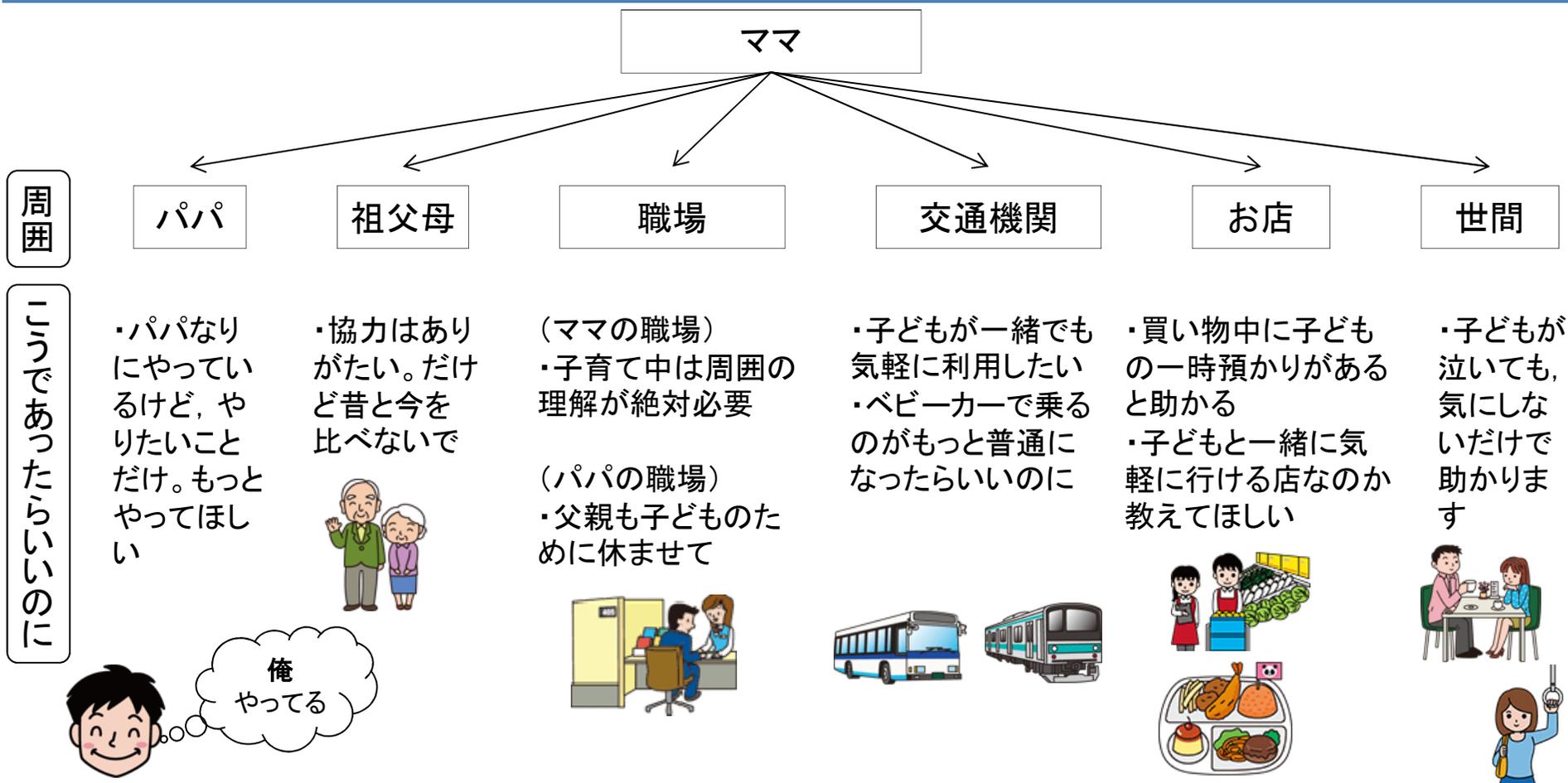
店舗、公共交通機関、職場などで、不快な思いをしないよう、行動を抑制してしまう

【現状評価】

子育ての主体はママであり、子育てにおいて、公共施設や職場で周囲の人々が不快な思いをしないように自ら行動を抑制していました。

政策 改革

さらに、子育て中のパパやママへのインタビューから、子育て中の親のストレスを軽減するためには、周囲の人の理解や行動が必要だとわかりました。



【現状評価】

子育て中の親のストレスを減らすことは、市役所からのサービスだけでは解決できず、周囲の人の理解や行動が必要であることがわかりました。

⑥ 解決すべき課題を設定する

⑦ 課題解決のための枠組みを作る
(体制・目標・取組み, スケジュール等)

⑧ 課題解決のための具体的な取組み(プロジェクト)
を実行する

政策改革

子育てにやさしい新潟市を実現に向けて、子育て世代を理解する市民運動であるスマイルプラス運動を盛り上げていくために、まずは啓発イベントを開催することとしました。

現状把握・分析・評価から明らかになった問題

- 子育てをする場としての新潟市の評価は、行政サービスの点では評価が高いにも関わらず、約3割の市民は魅力的ではないと感じている
- 子育て中の親へのインタビューから、子育て中の親は周囲(世間)へ引け目を感じており、自身の行動を抑制してしまっている
- 子育て中の親のストレスを減らすには、周囲の理解と行動が必要

取り組むべき課題

- 子育てにやさしい新潟市を実現すること

具体的な取り組み

- 社会全体で子育て世代を理解し、行動する「スマイルプラス運動」に取り組むことで子育て環境の底上げに取り組む
- 子育て世代を取り巻く現状や悩みについて、周囲の人々と共有するために、「子ども・子育て応援フォーラム」を開催する

政策 改革

子育てにやさしい新潟市を実現するために「子ども・子育て応援フォーラム」を開催し、子育ての世代が抱える悩みや体験について、個人・団体・事業者の皆さんと共有しました。

【子ども・子育て応援フォーラム】

子育て世代を取り巻く現状を話し合い、子育てで得られることや悩み、自分の体験をみんなで共有
子どもや子育てにもっと「やさしい新潟」をめざして個人で、会社で、市役所で、何ができるかみんなで考える

○日時

第1回 平成29年2月15日(水) 午後2時～3時30分

第2回 平成29年3月20日(月) 午後2時～3時30分

○会場 こども創造センター 光と音のホール

○参加者 現在子育て中の方、子育て支援に関わっている方、
子育てに関心のある方など(個人・団体・事業所など)

○内容 テーマ

第1回 “悩み共有”

～「新潟市の子ども・子育てあるある」～

第2回 “宣言・行動”

～「子ども子育てを応援します！私たちができること」～



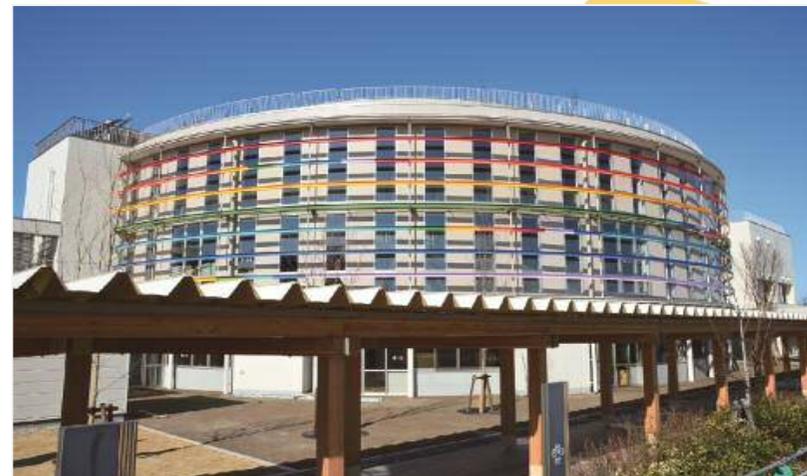
みんなの子育てに関する「あるある」エピソードや、子育てを応援する取り組みなど、子育てをとりまく現状について話し合い、子どもや子育てにもっと「やさしい新潟」をめざして、一緒に考えてみませんか？

現在子育て中の方はもちろん、子育て支援に関わっている方、子育てに関心のある方など、個人・団体・事業所を問わず、どなたでもお気軽にご参加いただけます！

新潟県立創造センター

【パネリスト】 ※敬称略

- ・小池由佳(新潟県立大学准教授)
 - ・椎谷照美(NPO法人ヒューマン・エイド22代表)
 - ・小平勝志(ファザーリング・ジャパンにいがた事務局長,
(株)サーティファイ商品開発部長)
 - ・伊藤星良(子育てネットワークDaijobu代表)第1回のみ
 - ・小見まいこ(NPO法人みらいずworks代表理事)第2回のみ
 - ・篠田 昭(新潟市長)
- 司会 大野 まさや(新潟お笑い集団NAMARA)



(出典) 2017年5月 政策改革本部会議資料「子ども施設の質の向上」

イメージ:新潟市ホームページ子ども・子育て応援フォーラム <http://www.city.niigata.lg.jp/kosodate/ninshin/info/kodomokosodateforum.html>

写真:新潟市ホームページ新潟市こども創造センター <http://www.city.niigata.lg.jp/kosodate/ninshin/odekake/kodomosouzou/index.html>

政策 改革

フォーラムを通じて、参加者から子育てに関する悩みや自身の行動について、様々な意見が出ました。

第1回 “悩み共有” ～「新潟市の子ども・子育てあるある」～

(子育てあるあるエピソード)

- ・3才の子どもがお店でぐずってしまい(かなり大泣きで、ひっくり返るくらい)、叱っていたら他の人から白い目で見られてしまった
- ・外出先を選ぶときに、おむつ替えや授乳室のあるショッピングセンターを選びがちになる
- ・子連れで食事に行ける店が限られていて、いつも同じ場所になってしまう
- ・買い物しづらい。双子用ベビーカーが通らない。買い物籠が持てない
- ・子供が多少うるさくても、ニコニコしてくれる所にレポートする など

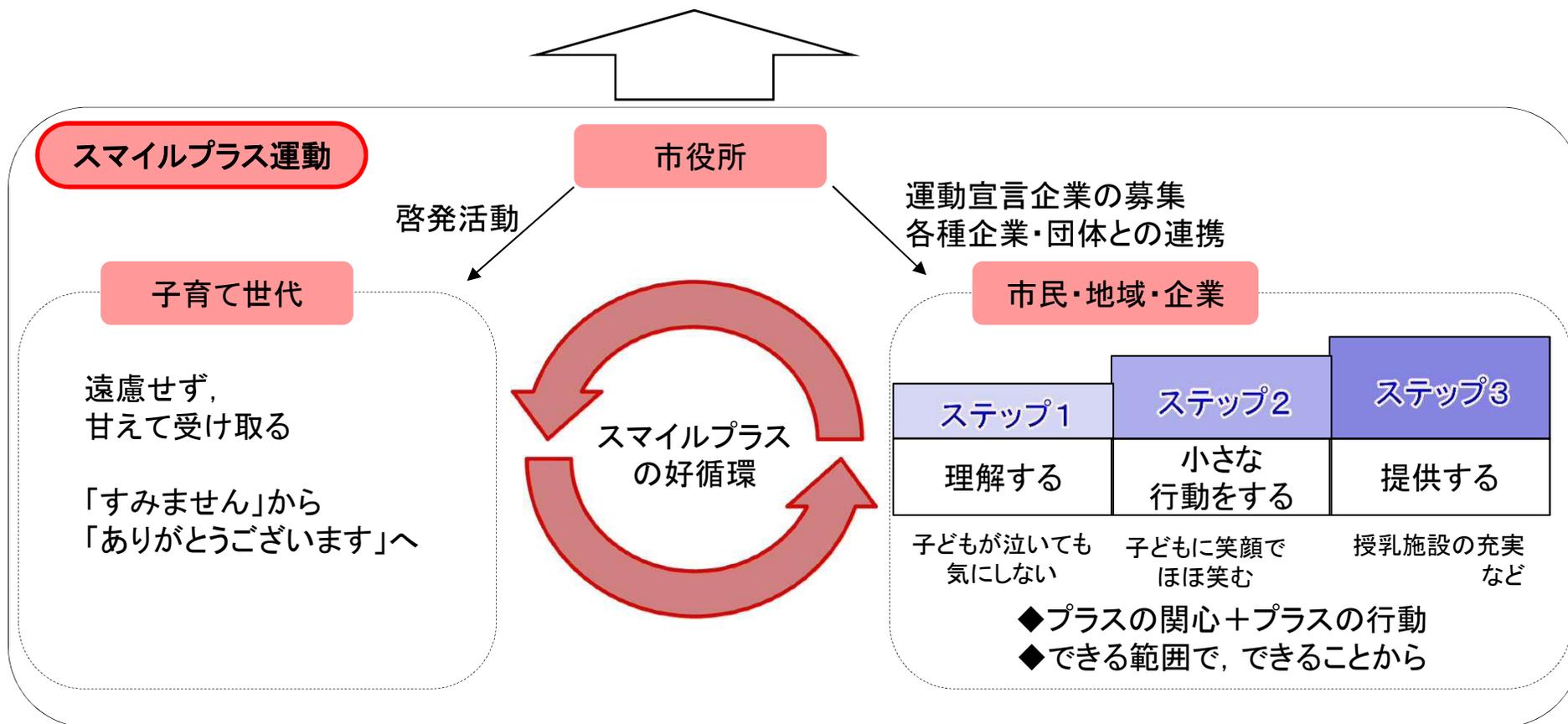
第2回 “宣言・行動” ～「子ども子育てを応援します！私たちができること」～

(子育てを応援するために自分ができること)

- ・職場でだらだら仕事をせず、今日は「〇時で帰ります」宣言をしたり、帰りやすい雰囲気作りを率先して行っていきたい
- ・子どもが泣いて親が困っているときに「お手伝いしましょうか？」と少しずつ言えるようになりたい
- ・保育園に入園していなくても地域のお母さんたちの声を聞ける場を提供していきたい
- ・人はお互い様。相手の思いに添ってあげたい
- ・スーパーなどでベビーカーに乗っている子や小さい子とすれ違う時、やさしく微笑んで通るように心がける など

政策改革 子育て世代が抱える悩みやストレスを市民・地域・企業が理解し、行動する「スマイルプラス運動」に取り組むことをフォーラムの中で宣言しました。

「子育てにやさしい新潟市」の実現



プロジェクトの成果

	協賛企業・団体	宣言内容
1	酒井健康整体	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援活動に積極的に協力します ・新生児、乳幼児からの、健康になるお手伝いを致します など
2	オートリフレッシュとがし	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援活動に積極的に協力します ・子どもたちが安全に通学できるよう見守るなど、事故から守る活動を行います
3	株式会社 フォーシンボル	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援活動に積極的に協力します ・子どもたちが安全に通学できるよう見守るなど、事故から守る活動を行います
4	総合空手 夢源会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子供達が快活な子供に変わる『文武両道の武道教育』を通じて街を元気にします！
5	個別指導塾ブイステージ (株式会社アイオス)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援活動に積極的に協力します ・男性も育児休業をとりやすい職場環境づくりを行います など
6	有限会社ビープロヴァイド	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援活動に積極的に協力します
7	ヘアーサロン おかざわ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援活動に積極的に協力します ・子どもたちが地域で多世代と交流できる場を設けます
8	眼鏡館コイズミ	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、無料視力測定サービスで子育て世帯に貢献致します
9	新潟合同法律事務所	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児を連れたお客様にも安心してご相談頂けるよう、所員一同対応致します
10	株式会社イウラ不動産	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援活動に積極的に協力します ・お子様連れのお客様が安心してゆっくり商談出来るよう、オモチャや絵本などをご用意しております など

	協賛企業・団体	宣言内容
11	Smile Clover	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援活動に積極的に協力します ・乳幼児を連れての方のために、授乳、お昼寝&おむつ替えスペースを設けます など
12	ヨガ教室SMILE	<ul style="list-style-type: none"> ・ママの笑顔が、パパやお子さんたちの笑顔になるよう、癒しの時間を。そして、健康に。お子様連れで参加できます。途中で授乳もおむつ替えもできます ・朝、子どもたちに会ったら「おはよう」と声をかけます
13	子ども食堂「こどもの茶の間」	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援活動に積極的に協力します ・子どもを真ん中に置いた地域の居場所づくりをしています など
14	おそうじ本舗 新潟茅野山店	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援活動に積極的に協力します ・子供たちが健康に生活できるよう、エアコン分解洗浄をはじめ、ハウスクリーニングを通して安全・安心の環境づくりを提供します
15	Mammy's Advance*	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援活動に積極的に協力します ・「がんばりすぎなママからゆるふわママへ」をコンセプトに、子育て中のママたちの心のサポートと、はたらき方をサポートします など
16	株式会社 SHIP	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援活動に積極的に協力します ・朝、子どもたちに会ったら「おはよう」と声をかけます
17	特定非営利活動法人 えんでは	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援活動に積極的に協力します ・乳幼児を連れての方のために、授乳室やおむつ交換台を設けます など
18	ユニー株式会社 アピタ新潟亀田店	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援活動に積極的に協力します ・地域のコミュニケーションセンターとして、誰でも気軽に訪れて楽しく過ごせる店づくりをしています
19	一正蒲鉾株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員が子育てしやすいように事業所内保育園を開設しています ・男性も育児休業をとりやすい職場環境づくりを行っています など

【新潟市社会福祉協議会との連携】

「速くお家に帰ろう」をキャッチフレーズにワークライフバランスの取組みを実践する企業を表彰するとともにスマイルプラス運動の文字が入ったステッカーを配布して意識啓発に努めました

(ステッカーは新潟交通のバスに貼付するほか、本庁及び各区の公用車にも貼付しました)



(ステッカーは
2017年度のもの)

【キッズプロジェクトとの連携】(BSN)

BSNラジオで2018年9月21日～12月末までの間に、スマイルプラス運動のステップ1※「理解する」をベースにした内容を1日1回、放送しました

※(スマイルプラス運動のステップ)

ステップ1 理解する(子どもは泣くのが当たり!)

ステップ2 小さな行動をする(子育て頑張っ!何をしてあげられるかな)

ステップ3 提供する(積極的にサポートします)

保育園

① テーマ(分野)の決定

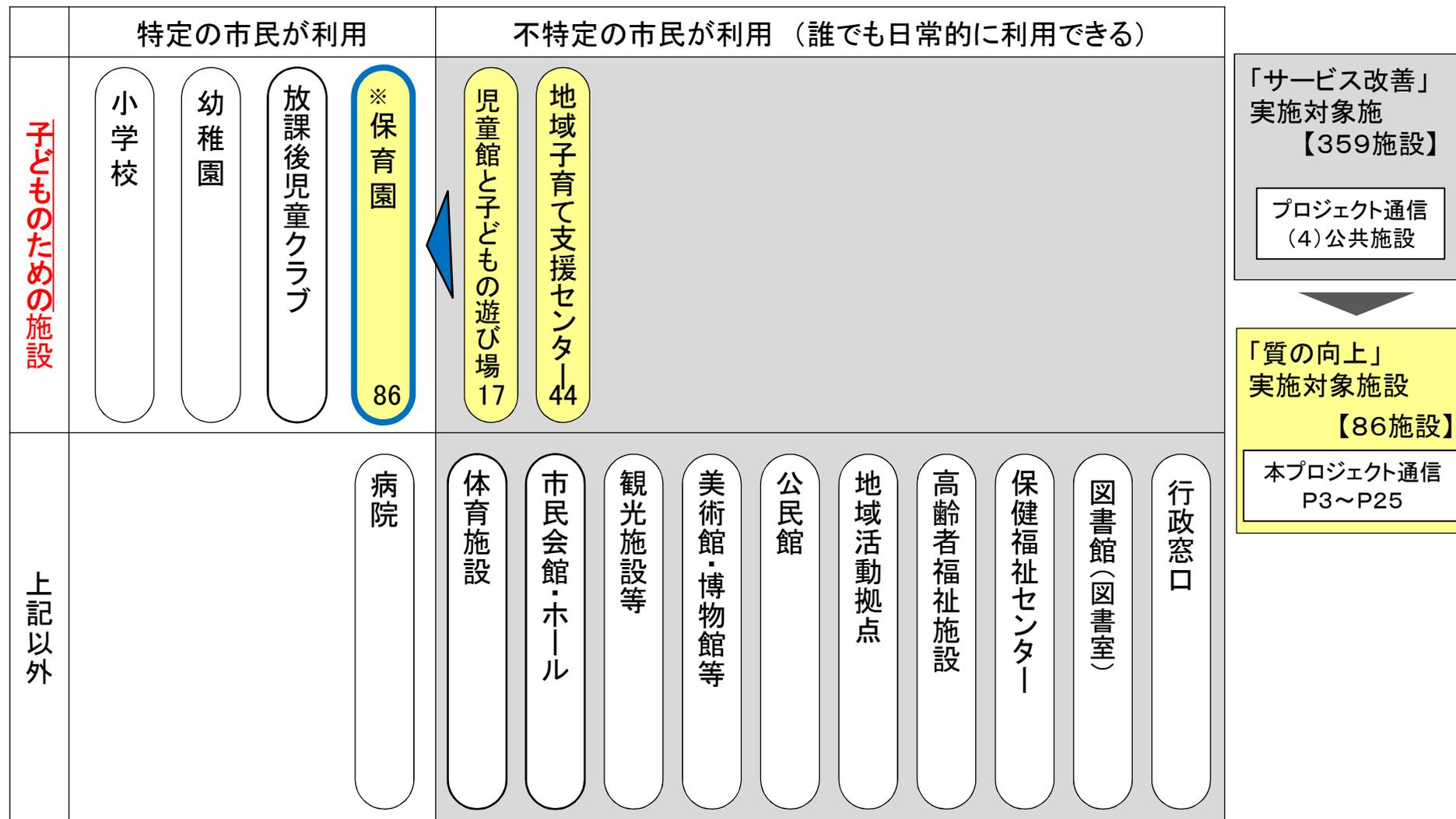
② テーマに対する問題意識を整理する

政策改革

これまで取り組んできた子ども施設の改善(P3～25)の取り組みについて、対象を保育園にも拡大しました。

一 市民が利用する公共施設一

【このプロジェクトの対象は、未就学児及び小学生とする】



(出典) 2018年9月 政策改革本部会議資料 「子ども施設の質の向上」の一部抜粋，一部加工
 ※...公立保育園を対象としている。

**政策
改革** これまで子ども施設では、利用者の満足度(CS)の向上に取り組んできましたが、
保育園では、保育の質の向上を目的として保育士の満足度の向上(ES)に取り組むこととしました。

【利用者の満足度(CS)の点での調査】

- ・保育園においても、これまでの子ども施設と同様に利用者(保護者)へインタビュー(数人へサンプル的に実施)を行いましたが、保護者は忙しく、インタビューでじっくり意見を聞くことは難しいことがわかりました
- ・また、園児から意見を聞くことは現実的ではありません

CSの点から施設改善に取り組むことは難しい
(そもそもじっくり要望を聴くことが難しい)

一方で、

【保育士の満足度(ES)の点での調査】

- ・勤務する保育士へ話を聞いてみると、本来業務である保育に加え、それ以外にも書類の作成などの様々な事務的な業務に追われ、疲弊していることがわかりました

保育園の改善では、事務作業を軽減し、保育士の業務の満足度(ES)を
上げることで、保育そのものの質の向上につなげる

政策 改革

保育園の現状を把握するために、市長への手紙や保育士へのインタビューで得た意見を分類すると、保育士の満足度(ES)に関するものとして「事務的な業務」が約20%含まれていました。

		CS	ES	
		<ul style="list-style-type: none"> 市長/区長への手紙(95件) 	<ul style="list-style-type: none"> グループインタビュー (57件) 現地調査(保育士インタビュー) (24件) 	
(政策的な判断が必要) A. 市の方針の見直し	入園/利用可否 40% <ul style="list-style-type: none"> 保育園の入園を申し込んだが、希望の保育園に入れない。 近隣の保育園もどこもいっぱいでは預けられない。 	職員確保/資格の有無と雇用形態 43% <ul style="list-style-type: none"> 結婚後に産休・育休に入るが、代わりの人が集まらない。 臨時職員も担任をやっている。 		
	保育料 23% <ul style="list-style-type: none"> 保育料が高すぎる 子どもの年齢が離れているため無償化の枠から外れてしまう。 	施設のハード面の制約 10% <ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化も深刻である。 		
(政策的な判断は不要) B. オペレーションの見直し	園長/保育士の対応力 24% <ul style="list-style-type: none"> 行事での保育士の態度が冷たい。 子供を乱暴に扱われた。 	事務的な業務 19%	問題意識 <ul style="list-style-type: none"> ・保育士の業務への満足度は低いのではないか ・保育士の事務的な業務の負担は大きいのではないか 	
	施設欲全 8%	園長/保育士の対応力 / 育成 14% <ul style="list-style-type: none"> 研修等による無資格者への意識改善も必要になる。 		
	駐車場対応 5%	職員の間関係, 雰囲気 5%		
	その他 5%	保護者/子供対応 5%		
		駐車場対応 4%		

政策 改革

事前に実施した保育士へのインタビューと現地調査から得た意見の結果から、まずは効果が出やすい「オペレーションの見直し」に取り組むこととしました。

インタビュー

対象：指導保育士4名，園長3名，保育士4名
内容：保育園で困ってること，苦労していること

(指導保育士)

・臨時の職員の産休へ対応もあり，人が足りていない

(園長)

・園長の仕事は多岐(除雪や園舎の修繕，駐車場の交通整理など)にわたる。

(保育士)

・書類が年々増えていると感じており，残業しないと対応できない など

現地調査

対象：市内公立保育園3園
内容：保育園の業務の実態はどのようになっているのか

(連絡便)

・週に複数回，園長自らが行っているが，そもそも連絡便のための時間の確保は難しくなっている

(登降園簿)

・保護者に手書きされるが，不明確な記載などは保護者への確認が必要。さらに園ごとで様式も異なる。(異動後は異動先の様式で再度業務を覚える必要がある)

(事務日誌)

・所定の様式と園独自の様式が併存。重複した作成作業が発生し，保育士の負となっている など

改善
の
視点

市の方針の見直し
(政策的な判断が必要)

人員配置，人材不足，多額の予算がかかる問題(駐車場の整備) など

オペレーションの見直し
(政策的な判断が不要)

書類の作成，連絡便などの保育以外の業務の問題 など

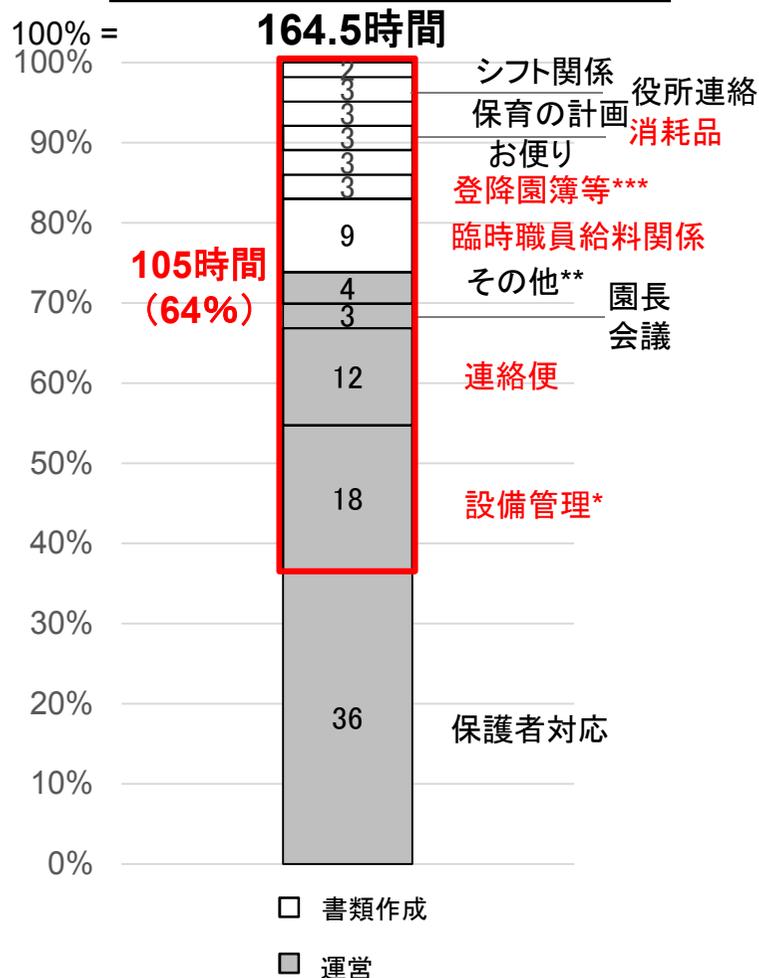
今回のプロジェクトの対象

- ③ 現状把握を行う (現状はどのようなか既存のデータを確認する)
- ④ 現状分析を行う (データを加工して指標化する, 傾向を確認する)
- ⑤ 現状評価を行う (あるべき姿と現状を比較, 本当はどうあるべきか)

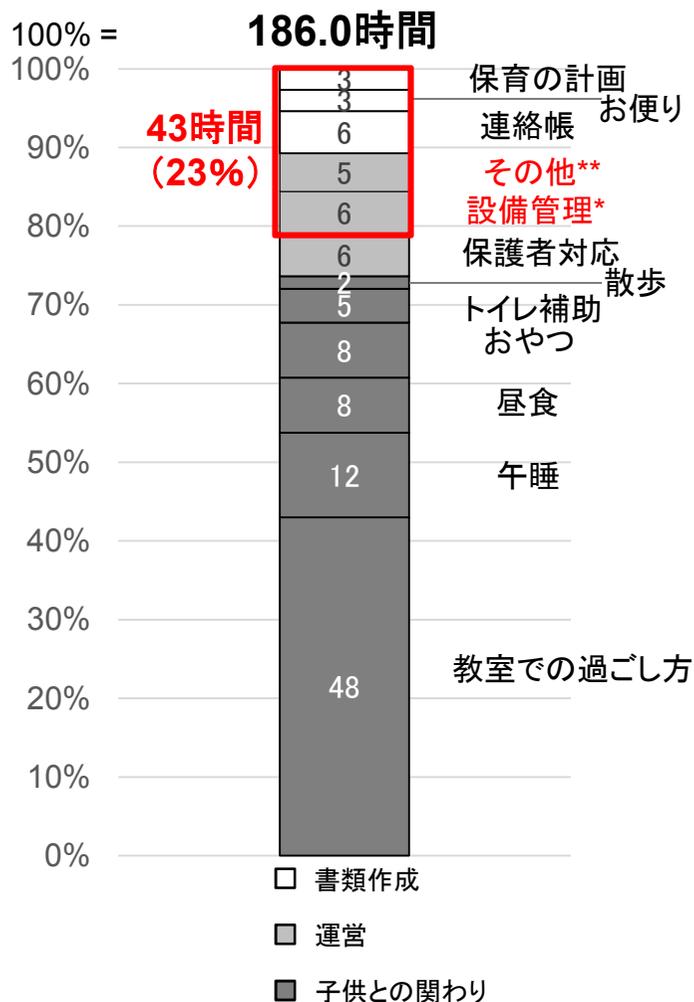
政策改革

園長と保育士へ1ヵ月あたりの業務について聞き取り調査を行った結果、園長、担任ともに事務的な業務が保育の時間を圧迫していることがわかりました。

現在の投入時間 (一園長の事例)



現在の投入時間 (一担任の事例)



【現状分析】

園長と保育士の1ヵ月あたりの業務内容を現地での聞き取りにより調査を行いました。

【現状評価】

園長では約105時間(64%), 保育士では約43時間(23%)が事務的な業務に充てられています。

* 修繕, 草刈り, 除雪など

** 写真, 行事, 研修, クラス会議, 避難訓練など (全て3時間以下)

*** 登校園簿および延長保育の対象一覧

(出典) 2018年9月 政策改革本部会議資料「子ども施設の質の向上」

政策改革 これまでの調査でわかったことをさらに深掘りするために、全公立保育園を対象に実態調査を行いました。

各園で共通して問題を抱えていると考えられる業務	事前調査より生じていると考えられる問題	調査内容
1. 園児の登降園時間の管理から延長保育料の算出	<ul style="list-style-type: none"> ・登降園簿(登降園時間を管理するもの)の様式は、園ごとに異なっている ・記載ルールは統一されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・主な担当者(担当保育士, 主任, 園長など) ・1ヵ月あたりの所要時間(分) ・業務の頻度 ・業務の手順 ・業務で不便に感じていること ・考えられる改善策など
2. 臨時職員の勤務管理, 給与計算	<ul style="list-style-type: none"> ・枚数が多い(最大50枚/園) ・1人で複数職種を持っている場合でも, 1枚に全て記載しなければならない 	
3. 連絡便	<ul style="list-style-type: none"> ・園長本人が書類の持参を行っている ・時間の確保がそもそも難しい 	
4. 園舎の施設保全	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な園舎の修繕や除雪などを自分達で行わなければならない 	
5. 職員のシフト作成	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な勤務時間で働く臨時職員と正職員を組み合わせたシフトを組まなければならない, さらにシフト作成後の変更も起きている 	
6. 事務日誌の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・所定の日誌の他に, 保育園独自の日誌を設けている園もあり, 2種類の日誌が重複して作成されていた 	



上記6つ以外の課題についての自由意見(自由記述)

1. 園児の登降園時間の管理 (現状)

園児の登降園時間について、玄関先に設置された登降園簿に保護者が手書きで記入しています。
記載漏れや読みにくい文字があった場合は、保育士が保護者へ確認しなければならず、負担となっていました。

●登降園簿の例

		登 降 園 簿						
平成30年度		5 月			組			
園 児 名	日	1	2	7	8	9	10	11
	曜	火	水	月	火	水	木	金
[Redacted]	登	8:54	8:57	8:57	8:46	9:14	9:25	9:08
	降	5:43	6:36	5:51	5:38	6:29	5:50	5:22
	登	8:12	8:10	8:10	8:10	8:10	8:10	8:10
	降	18:16	17:34	18:14	18:16	18:29	18:18	18:13
	登	7:54	7:54	7:55	7:58	7:54	7:57	7:58
	降	4:10	4:29	4:24	4:29	4:23	4:28	4:28
	登	8:48	8:34	8:12	8:27	7:52	7:49	8:08
	降	4:40	4:45	4:55	4:29	4:45	4:33	4:40
	登	8:32	9:08	8:28	8:31	8:31	9:00	8:28
	降	3:7	5:2	:	3:35	4:44	5:2	5:43
	登	8:32	/	8:28	8:31	8:31	9:00	8:28
	降	3:7	/	:	3:35	4:44	5:2	5:43
	登	8:23	8:28	8:33	8:26	8:29	8:29	8:28
	降	4:28	4:41	4:27	4:15	4:15	4:11	4:15

1. 園児の登降園時間の管理 (問題点)

保育園側が内容の確認作業に負担を感じていることに加えて、保護者が登降園簿を記入することによる様々な問題が発生していました。

【▼保育園側がそもそも抱える問題】

内容確認作業に苦労している

- お金に関わることなのでクレームにならないように事務には神経を使う
- 通常の保育事務もあり、作業時間を取ることが難しい
- 記入する時間のルールが不明確(4時と16時など)のため、確認がしづらい



【▼保護者が記入することによる問題】

時間のごまかしが発生

- 延長保育料金がかかる時間に迎えに来てても正しく記入しない人がいる。例えば、18:31に迎えに来てても、18:30と記入する
- 早く登園しているのに時間を遅く書く。例えば8:25分に登園しているのに8:30分と書き早朝料金がかからないようにする

記入漏れ・ミスが発生

- 朝に記入忘れが多く、夕方にまとめて記入する保護者もいる
- 熱が出るなどで、いつもより早い降園時間の際に記載漏れがある

不明確な記入が発生

- 余白がないので、記入間違いをした保護者が2重線で消して書き直すと、ほとんど判別できないことがある
- 子どもに書かせている保護者や老眼鏡を置いて書き間違える保護者がおり、判別できないことがある(眼鏡はあり、子どもが書かないように指導している)

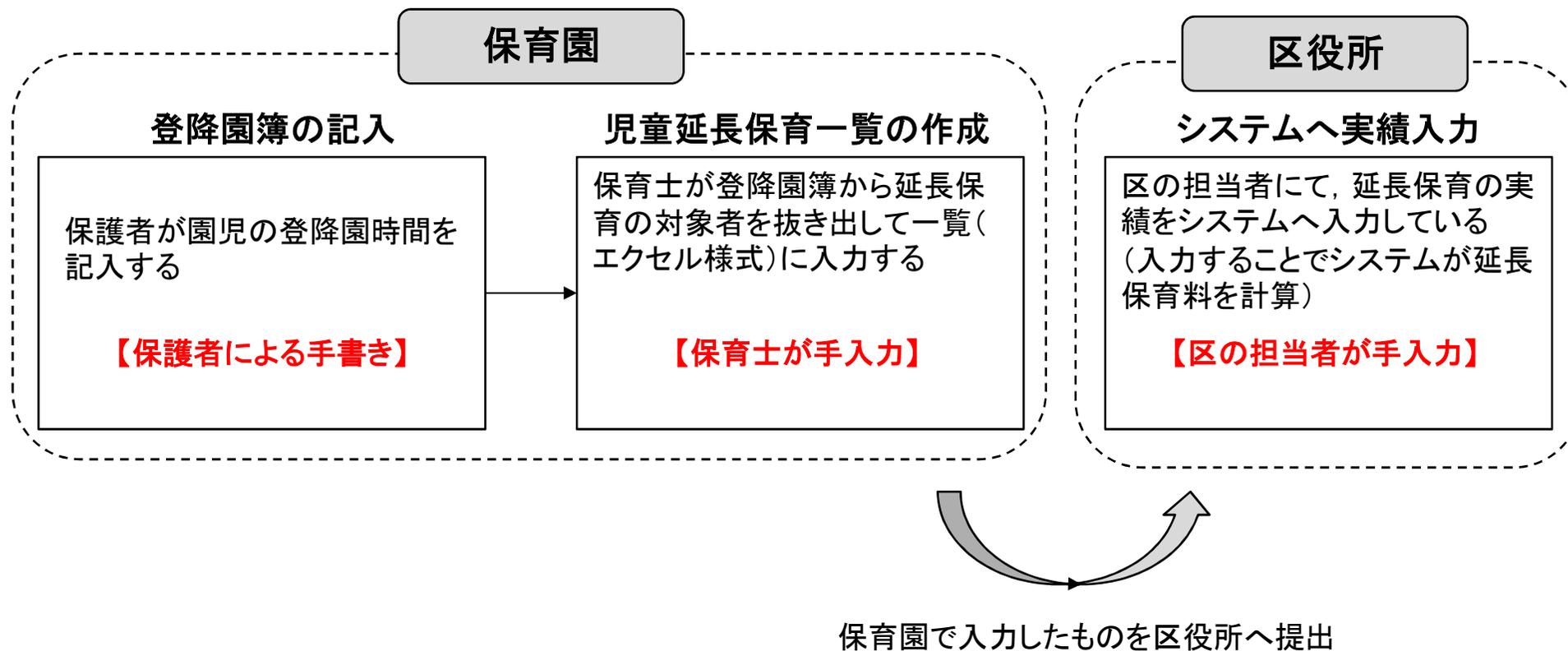
クレームが発生

- 記入欄が小さいので、毎日のように記入間違いがあり、保護者から指摘される
- 記入した時間について、繰り返し聞けばクレームにつながりかねない

1. 延長保育料の算出 (現状)

延長保育料の算出には、保護者、園の担当者、区の担当者の3者が関わっており、それぞれの手作業によって、金額が算出されていました。

●児童延長保育一覧の処理の流れ



1. 延長保育料の算出 (問題点)

保育園での延長保育料の算出業務には、「確認項目が多い／入力が煩雑」「締め切りが早い」「作成方法が各区で異なる」の3つの問題点があることがわかりました。

確認事項が多い／作成が煩雑

- 保育の短時間・標準時間の変更がある子どもがいるため、毎月確認をしなければならない
- 登降園簿から一人ずつ全てチェックしなければならず、漏れもありダブルチェックトリプルチェックが必要
- クラスごとではなく全園児のあいうえお順で作成が必要なので大変

締め切りが早い

- 提出の×切が早く、残業しなければ間に合わない
- 月末にしか確定しない上、締め切りが5日なので土日や祝日が入ると非常に時間が足りない
- 登降園簿にマーカーを入れて確認しているのに、翌月にならないと確認作業が始められず、締め切り日が厳しいことがある

作成方法が各区で異なる

- 全市統一したやり方、入力方法にしたほうが良いと思う
区をまたぐ異動が多く、様式の違い、作業の違いに職員が慣れるのに時間がかかる

政策改革

2. 臨時職員の勤務管理、給与計算（現状）

臨時職員の勤務管理や給与計算はすべての保育園で「出務票」により行われています。様式は統一されていますが、記載方法は、園ごとにバラバラになっていました。

● 出務票の記載例

平成30年出務票

※時間外勤務をした場合は時間外勤務命令票を提出すること

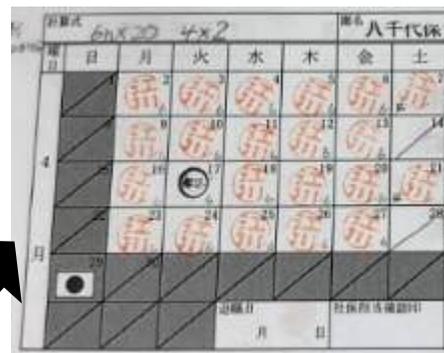
コード 12345678 氏名 竹内 花子

計算式 土曜 6×18=108 日曜 6×5=30	園名 〇〇〇保育園	職種 調理士	(時間) 6 土曜 6									
曜日	日	月	火	水	木	金	土	健康 (有・無)	種類	単価	数	金額
								1 厚年 (有・無)	日給			
								2 雇保 (有・無)	1.00	830	108	89640
								3 年休月始残日数	1.25	830	30	24900
								4 賞金算定日数	通勤	380	20	7,600
								5 所屬長確認印	合計			122,140
								6 退職日				

給与総額 20,360

※赤字部分は
すべて手書きで記載
臨時職員数分を実施

最大で50人分作成
(出務票の主たる作成者の
所要時間は、最大で
約6時間)



2...調理員としての勤務時間
3...保育士としての勤務時間

枠内に職種ごとの勤務時間を記載している



枠を2分割して使用している



早...早朝パート
調...調理員
延...延長パート

勤務した職種に矢印を引いている

2. 臨時職員の勤務管理, 給与計算 (問題点)

出務票には, そもそも, 「事務が複雑」「作業量が多い」「処理量が多い」という問題があり, その上に, 様式の使いづらさや人の問題, 併せてスキーム上の問題も生じていました。

【▼そもそもの問題】

事務が複雑

- 様々な働き方をする臨時職員がいて煩雑(早朝, 調理担当, 延長等)
- 年休簿・通勤手当簿など照らし合わせの書類が多く大変である
- 同日に2回出勤する職員の交通費なども含めての計算が複雑である

作業量が多い

- 紙書式のため, 電卓を使用して人の手で計算を行っている。訂正もしにくい
- 役所は常にWチェックをと言ひ, 園長と主任で様々な提出物のWチェックする
- 鉛筆で下書きしてもらい, 確認して修正したり, ペン書きをした後は消しゴムで消す作業に時間がかかる

処理する量が多い

- 臨時職員が非常に多い中, 準備や確認だけでも非常に負担
- 臨時職員の人数が多いところは, 出務票の作成に係る下準備や確認が50人にも及ぶ

【▼様式や人の問題】

様式が使いにくい

- 枠が狭く, 小さい文字で記入しなければならない
- 年休の欄の単位が日数のままで, 時間単位取得に対応していない
- 1日に2回出勤する職員に対応していない

臨時職員の記入にミスが多い

- 臨時職員の中には, 説明しても, 印の押し方や記入の仕方をきちんと理解できない方もいて, 手直しや確認作業に多くの時間を取られてしまう
- 臨時職員も高齢化し, 記入方法を覚えられない人もいる

【▼スキーム上の問題】

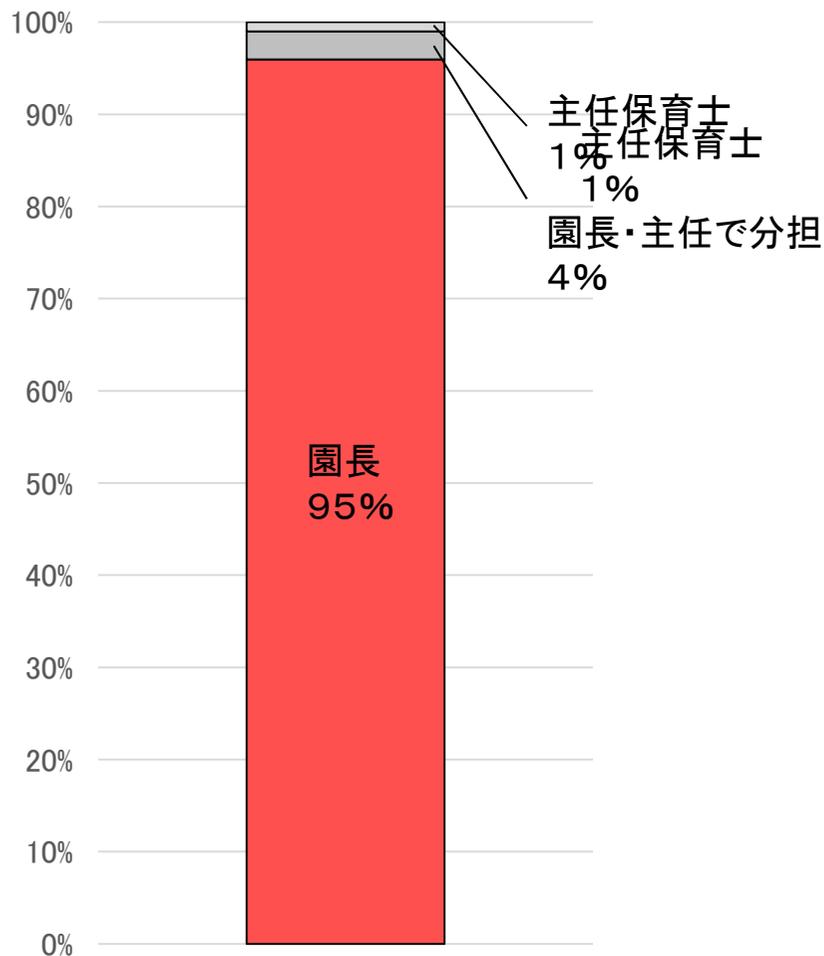
月末までの見込みで計算して提出するため, その後の訂正が生じる

- 区に提出した後に急な年休などが大変多く, その都度変更連絡が必要である
また, 休んだことで給食回数も変わり, 報告, 修正, 返金作業に時間を要する

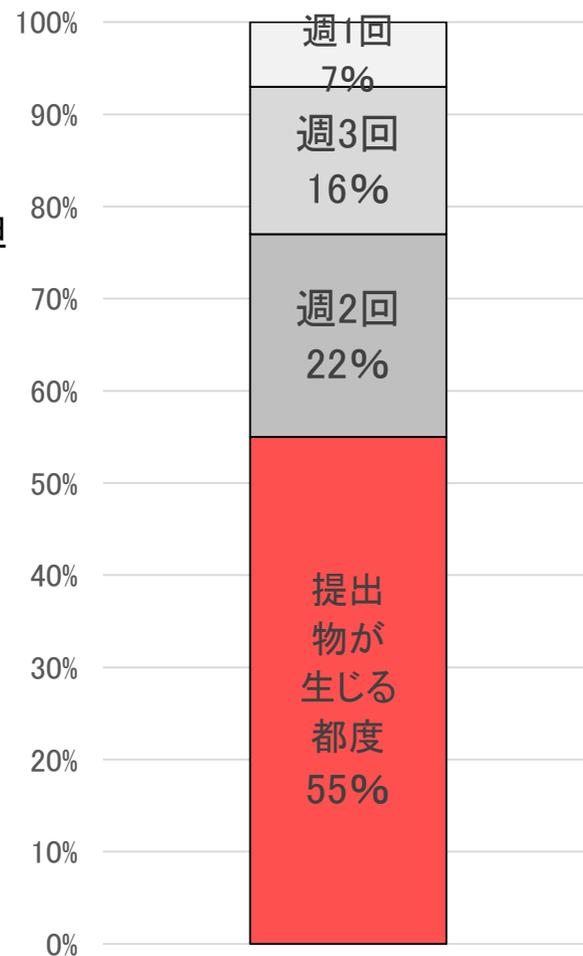
3. 連絡便 (現状)

保育園の連絡便は、9割以上の保育園で園長が直接持参する形で行っていました。
また、約半数の保育園では、提出物が生じる都度、区役所に連絡に行っていました。

連絡便に行く人



連絡便に行く頻度



保育園からのコメント

- 園内の仕事があるのに、役所まで行かなければならない
- 保育園が手不足な時や、行事がある日などは不在にしづらい

そもそも連絡便のための時間の確保は難しく、連絡便に行くことで業務に支障も出ることから休憩時間・時間外に行かざるを得ないという問題が生じていました。

連絡便に行く時間を確保できない

- 日常業務多忙だったり、主任や職員の休みがあつたりすると行く時間を作り出せない
- 園長が保育業務に入ったり、打ち合わせや研修、保護者対応などが大変多く、区役所まで行く時間を作るのも難しい時が多い

業務に支障が出る

- 人手不足の時は、保育から離れられない
- 1時間未満で行えるがその分通常業務を行う時間が減ってしまう
- 園長若しくは主任が不在の時もあり園を空けるのが不安である

上記の理由から

休憩時間・時間外に行かざるを得ない

- 園長の休憩時間が充てられているのが現状
- 午睡中など、保育に支障をきたすことのないようにタイミングを見計らい行かなければならないため、休憩時間が取れない
- 急な提出物の時は、出る時間も遅くなりがちで7時を過ぎることがある
- 人手不足の際は夜遅くに行っている
- 日中区役所に行くことが困難なため、ほとんど17:00以降、もしくは会議、研修の後である個人情報に関わる書類も多いため、その後保育園に戻ると18:00を過ぎる
- 役所は棚入れしておしまい。出先は人手がなく日中行けなくて時間外に行くしかない状態の時も多々ある

さらに前述の問題に加え、区と園の調整不足に起因する連絡の行き違いも生じていました。

連絡便が多頻度で発生する

- 文書の引き取りや提出締め切りが重なると対応に困る
- 保護者から次々に提出される勤務証明などの提出が不便
- 提出物が結構多く、その都度役所に行かなければならない
また、保護者から預かる書類なども頻繁にあり、どうしても回数が増えてしまう

1件でも行かなければならない

- 保護者からの提出書類があった時には、1件でもやはり届けなければいけない
- 保護者からの提出物は個人情報なので日々届くこともあるが、一枚だけ持っていくには大変さを感じる

区から急な提出を求められる

- 現場を抱えている側では、突発的な育児相談等があり、即提出を求められても非常に難しい大雪だったり、育児相談等でどうしてもいけない時がある。
現場の事情も分かってほしい
- 急な提出物の時は、出る時間も遅くなりがちで7時を過ぎることがある

さらに 

区と園で、連絡の行き違いが生じている

- 2~3日行かないと、たくさんたまっていたり、締め切り間際のものがあったりする
- 一斉連絡で連絡便があると、区から連絡があったため行ってみると当園は該当していないことがあった
- 園から区へ文書を持参した後に、区から園へ(荷物がある旨の)連絡がある
- 前日に行ったばかりなのに、区から連絡があり翌日も行かなければならなくなる

4. 園舎の施設保全 (現状)

保育園が実施している主な施設保全業務には、園内の清掃，修繕，草取り・木の剪定，除雪，駐車場の誘導があります。一部委託の業務もありますが，そのほとんどを自前で実施しています。

実施園における業務実施者の内訳【複数回答】

業務内容 (実施園数)	①自前で 実施	②委 託	③地域 ボランティア	④区職員	⑤その他
A 園内清掃 (全園)	84	7	—	—	1
	98%	8%	0%	0%	1%
B 園舎の修繕 (全園)	53	39	—	1	14
	62%	46%	0%	1%	16%
C 草取り， 木の剪定 (全園)	74	30	10	1	4
	87%	35%	12%	1%	5%
D 除雪 (85)	79	22	6	—	4
	93%	26%	7%	0%	5%
E 駐車場の 整理 (41)	39	1	1	—	2
	95%	2%	2%	0%	5%

(上記以外で実施している業務)

窓ふき，エアコン清掃，プール清掃，保育室・トイレの消毒，水道のつまり解消，雨樋の掃除，ワックス掛け準備，園庭の水まき，駐車場の開閉，銀行への振り込み，古紙や廃棄物のまとめ，電灯取り換え，畑づくり，猫の糞尿処理，園庭脇歩道の清掃，園周りの側溝清掃，地域行事への参加

4. 園舎の施設保全 (問題点)

「時間がない・人手不足・保育が手薄になる」, 「専門知識・技術がなく不安」など, 主に4つの問題が生じていました。

時間がない・人出が不足・保育が手薄になる

- 子どもの保育に必要な職員の配置で, そのほかに必要とされる除雪や草取りなどは負担が大きい
- すべきことは多岐にわたり, 保育の業務ですら, 時間が足りない

敷地が広すぎる

- 土地が広大で有り難い反面, 木の選定や草取り等, 園外の環境整備にかなりの時間を要する

専門知識・技術がなく不安

- 樹木伐採や補修を必要に迫られて行うことがあるが, 知識・技術が保育士は専門外で不安

園長や主任保育士に業務が集中

- 園児は朝早くから遅くまでいるため, どうしても保育優先にならざるを得ず, 園長・主任の肩にのしかかってくる

5. 職員のシフト作成 (現状)

行事・研修などを配慮しながら、早番、遅番等の当番を公平に入れることは、非常に煩雑になっていました。

● 職員のシフトの例

平成30年 8月業務予定表

日	曜	早	遅	指定休	代休	年休	業務予定
1	水	藤原	中野		坂井(半/代)	石井H組 松本、石川	園ちゃんの話 10:00~(食と花の推進課)スクリーンの用意必要 保育体験水田様 園ちゃん野菜くずの手紙配布 水谷 13:30~17:30
2	木	阿邊	石川		P中田	藤原 P高橋淳 P平松	
3	金	横井	中田	高橋淳(夏)	樋口(半/代)	関根 P平松	3歳児研修会(石川) 休 休 休 休 休 休 休 休 休 休 休 休 休 休
4	土	坂井	阿邊 中田				A休み B出勤 ①石山②吉田③石塚④江川 石山・石塚休み
5	日						
6	月	桑原	坂井	横井(夏) 石川(半/代)		石井H組 井越 吉田	園長会 13:00~14:00 星倫市民会館大ホール 園ちゃん① 休 休 休 休 休 休 休 散居力一課会場の借用に休 休 休 休 休 休 休 不審者訓練 園長会 14:00~(中野) 1歳児会議 水谷 13:30~17:30
7	火	石川	藤原		阿邊(半/代)	P高橋淳	
8	水	中野	阿邊	藤原(夏)		坂井	幼児部会議 16:00~
9	木	井越	横井	藤原(夏)	石川	樋口(半/代) 福田	園見学 10:00~小泉様 園ちゃん② 県外研修(石川) 調理員研修 15:00~(高橋) 2歳児会議 13:00~
10	金	小田	桑原	横井(夏) 藤原(夏)	石川	井越(半/代) 石川	樋口 8:00出勤
11	土						
12	日						
13	月	中田	小田	中野(夏) 石川(夏) 高橋淳(夏)		藤原 井越 P平松 高橋利 井越 吉田 藤原 江川 桑原	プール停止 水谷 13:30~17:30
14	火	藤原	樋口	中野(夏) 石川(夏)	P桑原 井越(半/代)	小泉 高橋利 坂井 平松 高橋利 A中田 井越 江川	10:00~ヒラウ王子園見学 園ちゃん③
15	水	坂井	横井	阿邊(夏)		樋口 小泉 平松 江川	保育体験井関様
16	木	平松	井越	阿邊(夏) 井越 高橋淳(夏)		井越 桑原 樋口 石塚	0歳児会議
				阿邊(夏)			

5. 職員のシフト作成 (問題点)

シフトの作成には、「複雑・時間がかかる」、「各区で様式・やり方が異なる」、「シフト完成後の変更が多い」などの問題が生じていることがわかりました。

複雑・時間がかかる

組み合わせが複雑すぎる	○多様な勤務時間・研修・行事・年休・代休等の休みを考慮し、そこに早番・遅番を入れ、なおかつ平等に作成することはとても時間がかかり、難しい
職員数が多い	○職員48名のシフト作成は至難の業です。全員が普通勤務なら簡単ですが、早番・中早番・遅番・午後番など、欠けた部分を補いつつ組んでいくのは本当に大変
人が不足	○シフト作成に関しては、作成書式に課題があるのではなく、人事的な要素で作成に時間がかかっている(人員がないなか、遅番・早番のやりくり、園行事・職員の年休など予定が入り込んでおり、作成に時間を要する)
じっくり考える時間がない	○集中して考えないとならない作業だが、保育に入ったり、様々な用事で、中座をしたりするとじっくり考えられず、余計に時間がかかる
休みの調整が困難	○臨時職員は年休全消化が当たり前になっている。一日に必ず何名も年休や指定休で休む職員がいるため、どうやりくりしても人が不足している。年休希望が重なり、正職が休みの変更をしたりと、正職に負担がかかっている
臨時職員の調整が困難	○臨時職員は多様であるため、シフトが複雑化している ○臨時職員の年休が突発的に入ることが多い ○扶養になっている臨時職員の税金調整など、困る

各区で様式・やり方が異なる

- 保育園ごとにシフトが違うので、移動すると大変である
園ごとに早朝・延長職員の土曜勤務も違ったり(毎週・隔週・3週に1回など)、同じ短時間でも土曜日に出勤する人とならない人がいたり様々。統一できないのか

シフト完成後の変更が多い

- 苦勞してシフトを組んでも、年休の申し出が追加され、そのたびに早番や遅番、休みの変更が必要
- 追加や変更があったら訂正版を出すようにという園長もいて、月末の30日までに3回は発行しなければならず、大変だった

その他 (人がやった方が早い)

- エクセルの機能を使って何とか手数を減らそうとしたが、これは人がやる方が早いと挫折

6. 事務日誌の作成 (現状)

所定の日誌は、内部監査で使用するため、全保育園で作成していましたが。また、所定の日誌で不足する部分を補うため、約半数の保育園では所定の日誌とは別に、園独自で日誌を作成してました。

【所定の日誌】 (内部監査用)

事務日誌										園長	主任
月	日	曜日	天気	行事		欠席		早番	遅番	発信	受信
児	組別	在籍	出席	事	病	計	職	選	番		
童	組									員	指
の	組									の	定
状	組									状	年
況	組									況	休
	計										特
記											他
事											

【保育園独自の日誌】 (実務用) ※写真は一例

事務日誌									
9月 日() 天気()									
本日の予定				早番	遅番	研修・会議・出張			
一時預かり (未印)									
配布物				指定休		特別休暇			
				半日		一日			
週休				梨沙		選番補助		年休	
				竹和		延長選番		時間	
アレルギー対応食(卵)				給食		おやつ		支援センター	
人数		事		病		与薬		その他	
ゆり組 29人								錦澤 櫻井	
								住子 鎌田	
								中山 青木	
								佐藤 横山	
								菅原	

約半数の公立保育園では、所定の日誌では項目が足りないと感じており、赤枠のように項目を追加した園独自の日誌を使用している。

6. 事務日誌の作成 (問題点)

所定の日誌では、使いにくさが生じていることに加え、独自の日誌を設けている保育園では、作成事務の重複が生じていました。

所定の日誌は使いにくい

- 記入欄が小さい
- 所定の様式の他の詳しい日誌があるため、あまり活用する用途はなく、他職員が見ることも記載することもなく、保存の為となっている
- 各園で使用している、連絡日誌の方が全ての情報が網羅されていると思う
- 受信欄に何を書いたらいいのか迷う。今はほとんどメールで連絡が来るし、数も多く書ききれない
- 早中番、園児の事欠、病欠の理由について、与薬内容、連絡事項、給食献立、おやつ献立、前日の遅番から早番への伝言、などが無い
- 忙しい中で毎日記入することが大変。後から見返すことはあっても、常に書いているミーティングノートとは違い、実用性が低いため後回しになってしまう

非効率を感じながらも重複して日誌を作成している

- 日々の保育を円滑に進めるためには、より具体的な情報が必要なので「朝の連絡」(ミーティングノート)を作り記入し打合せをしている。「朝の連絡」の記事から「事務日誌」に書き写している。
- 全職員が一目で今日の動きが分かるような連絡版として所定の事務日誌も使っているが園独自の連絡版も使っている
- 子どもの人数は出席簿で確認しているので、日々の人数で重複して記入はいらないのでは
- 独自の日誌を作成し、朝礼時使用している。さらに事務日誌も書くので二度手間になっている
- 日誌以外にも職員間で情報を共有する日々のミーティングノート(保育日誌)があるなど、手書きでいくつかの書類に重複することを日々記入している
- 現在は所定の様式の事務日誌と、職員連絡用の日誌(連絡簿)を両方書いているが、ダブっている内容も多い

⑥ 解決すべき課題を設定する

⑦ 課題解決のための枠組みを作る
(体制・目標・取組み, スケジュール等)

⑧ 課題解決のための具体的な取組み(プロジェクト)
を実行する

プロジェクトの成果

政策 改革

保育士の事務的な業務について、全園への実態調査から分かった課題に取り組みました。

現状把握・分析・評価から明らかになった問題

- 園長と保育士の一カ月あたりの業務を調査すると、園長では64%、保育士では23%が保育以外の事務的な業務に充てられており、保育のための時間が圧迫されている
- 保育園では、人材不足などの「市の方針の見直し」が必要な問題と、保育以外の事務的な業務などの「オペレーションの見直し」が必要な問題がある

取り組むべき課題

○オペレーションの見直し(保事務的な業務の改善や効率化)から、保育士の働きやすい環境を整え、保育の質を向上させる

具体的な取組み

- 実態調査の結果について、WGが「すぐに取り組む課題」を選定し、各課題の具体的な改善策を決定した
- 各区1園ずつモデル保育園と各区の担当者が改善策を実践し、全園へ改善策を展開した

政策改革 将来的に保育園が自分たちで現場の改善に取り組むためには、実際に業務が改善されたことが目に見えること、効果を感じることができることが、まず必要だと考えました。そのため、短期間で結果が得られる課題から、取り組みを始めることとしました。

すぐに取り組む課題	
【課題1】	保育園の予定を職員ポータルのスケジューラーへ入力することを原則廃止する
【課題2】	保育園から保護者へ手渡ししている保育料・延長保育料等の納付書の受け渡し方法について改善を図る
【課題3】	連絡便を原則廃止する
【課題4】	出務表の給与計算を区で行う
【課題5】	出務票の給与計算部分をエクセル化し、書式を全市で統一する。併せて出務票記載マニュアルを作成し、記入方法についても統一する
【課題6】	職種別の給与データを保育課へ報告する時期・回数・書式等について再検討する
【課題7】	児童延長保育一覧書式を変更する
【課題8】	所定と独自様式で複数作成されている事務日誌の記載内容を一つに集約してエクセル化し、全市で書式を統一する
【課題9】	登降園簿の記入ミス減らす
【課題10】	臨時職員の出務票への記入ミス減らす
【課題11】	シフト作成後の変更を減らす
【課題12】	現金の取扱いを廃止する
【課題13】	園へ依頼する書類作成・照会・回答を削減する
【課題14】	入園・継続・支給認定変更等に係る書類の受付・確認・修正依頼・通知は、区と保護者が直接行う
【課題15】	区によって異なる庶務内容を統一する
【課題16】	一時預りに係る事務を削減する(効率化を図る)
【課題17】	保育園の見学者対応は、個別ではなく、日時を決めて複数人をまとめて受付・対応する
【課題18】	小学校のように、緊急連絡を保護者の登録制でメール配信する
【課題19】	行事等写真のネット販売を導入する
【課題20】	臨時職員の給与明細は個人宛に送付する

11の課題から優先して取り組む

→ P56～58

→ P54～55

→ P52～53

→ P63～64

→ P50～51

→ P54～55

→ P61～62

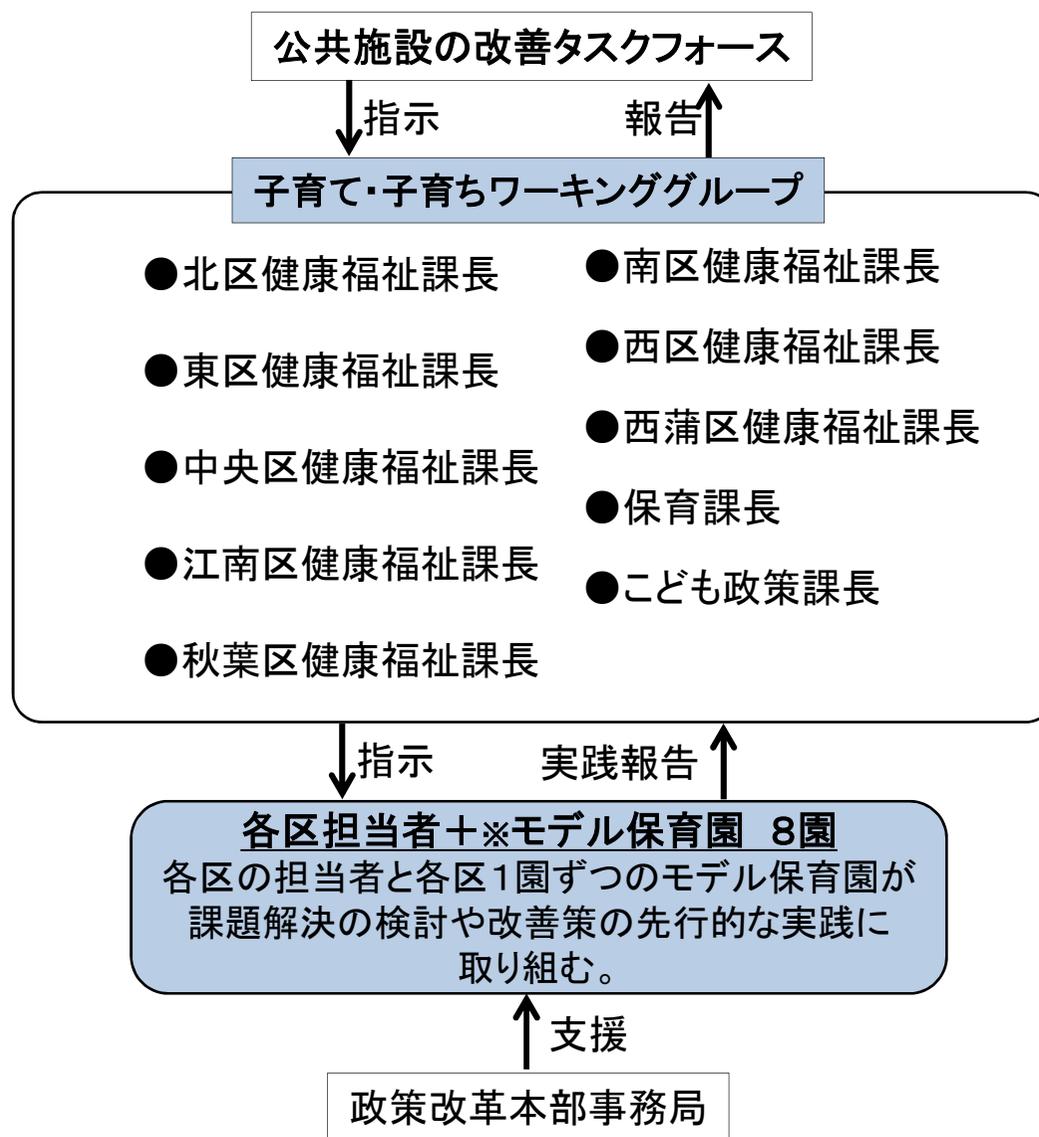
現状確認後、
順次改善を進める課題
(「すぐに取り組む課題」以外)

- ・正職員の適正配置
- ・用務員の配置
- ・パソコンの増台
- ・駐車場の増設 など

「課題12～20」および「現状確認後、順次改善を進める課題」は、各課題の現状把握を行いながら改善を進める

政策 改革

実際の改善では、子ども施設の所管課で構成する子育て・子育てワーキンググループを設置し、各区が1園ずつ選定したモデル保育園と区の担当者が連携して取り組みました。



※(各区モデル保育園一覧)

北区:ちとせ保育園
東区:山木戸保育園
中央区:敷島保育園
江南区:亀田第四保育園
秋葉区:矢代田保育園
南区:月湯保育園
西区:坂井保育園
西蒲区:すわ保育園

政策 改革

【改善の具体例】: 課題3 連絡便

連絡便の改善策として、全市で統一したルールを定めました。

【問題点と改善策】

- (1) 連絡便のための時間取得は難しく、休憩時間や時間外に実施
- (2) 週に複数回、園長が直接持参しており、多くの時間と経費がかかっている

	時間※1	経費
1回	31分	1,464円※2
1年間(1園)	54時間	152,256円
1年間(全園)	4,621時間	13,094,016円

- (3) 区から要請により、急遽、区役所へ行くこともある

ポイント:
園長が文書の受け渡しのためだけに行き来することをやめる

内容:
原則、以下の2点により行う

- (1) 保育園は、業務で区役所に行く機会を通じて、書類の受け渡しを行う
- (2) 区役所は、連絡便のための急な呼び出しを行わない

⇒ 2019年1月8日 全園へ通知

モデル園での試行後、2019年1月より全公立保育園で原則ルールを適用しました。

【削減効果】

改善前	改善後	改善効果	保育士からの意見
5.2時間 ※3	0時間 ※4	-5.2時間	<ul style="list-style-type: none"> ・区役所からの急な呼び出しはほぼ無くなった(配慮してもらっていると感じる) ・郵便局や郵便ポストが近くにある保育園の場合、郵送での対応が可能になると、より効率化が図れると思う

※1 保育園と区役所の平均往復時間(21分) + 区役所での作業(10分)

※2 31分(往復時間+作業時間) × 園長の平均時給2,483円 + 181円(区と園の平均距離(8.2km) × 22円) で計算

※3 週2回ずつ1ヵ月間行った場合の時間を試算 【1回あたり: 31分(保育園と区役所の平均往復時間(21分) + 区役所での作業(10分))】

※4 原則、他の業務で区役所へ行く機会を利用して書類の受け渡しを行うため、連絡便として(連絡便のためだけに)区役所へ行くことは無くなる

園独自の日誌を廃止するとともに、所定の日誌を改善し、全園へ展開しました。

【問題点と改善策】

(1) 所定の日誌では、記入欄が小さいことや管理したい内容の項目が無いなどが生じている

(2) 保育園によっては、保育園で独自の日誌を作成し、園児の状況を管理している
独自の日誌を使っている保育園では、所定の日誌と保育園独自の日誌の重複作成が生じている

ポイント：
作成作業の重複を無くす

内容：
必要な項目を網羅した**全市統一の新様式を作成して、全園へ展開する**
(A3・A4の2パターンを用意し、保育園の規模に応じて使い分けてもらうこととした)

⇒2019年1月8日 全園へ通知

利用者と保育園の双方で使いやすい様式に改善するとともに、記載のルールを定めました。

【問題点と改善策】

(1)時刻を記入する枠が小さい (例では, 1マスあたり 横:1cm 縦:0.5cm) ⇒数字の判別のしにくさにつながっている
(2)書かれる時刻は12H表記と24H表記が 混在
(3)他人の欄に間違っ書いしてしまう



ポイント: 利用者(保護者), 保育園双方にとって 使いやすい新様式を全園で展開する
内容: <ul style="list-style-type: none">・時刻を記入する枠の大きさを確保 (新様式では, 1マスあたり 横:2cm 縦:1cm)・行を判別するために隔行に着色・記入する時刻は24H表記に統一・時刻を正確に記載してもらうためにデジタル時計を設置
⇒2018年11月30日 全園へ通知

政策 改革

新様式を全園へ展開しました。

『これまでの登降園簿』(例)

年度		月		組											
園児名	受け渡し 場所	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
		曜													
1	登	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	
	降	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	
2	登	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	
	降	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	
3	登	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	
	降	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	
4	登	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	
	降	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	
5	登	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	
	降	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	

『新・登降園簿』

平成30年9月										〇〇保育園		〇〇組		登降園簿		
番号	名前	時間	1日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	10日						
			土	月	火	水	木	金	土	月						
1	登園															
	降園															
2	登園															
	降園															
3	登園															
	降園															

1マスあたりの枠の大きさを確保するとともに、時刻の記載を24H表記に統一した

各行で色分けをして書き間違いの削減を行った

※正しい時刻を記載してもらうため、24H表示のデジタル時計を設置した

モデル園での試行後、2019年1月より全公立保育園で新様式を展開しました。

【削減効果】

改善前	改善後	改善効果	保育士からの意見
把握していない	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・枠が大きくなったため、高齢の方にとっても見やすく、書きやすく好評 ・色分けによって、書き間違いは少なくなったと感じている

今回、取組みを進めてきた事務的な業務の改善とは別に、機器の導入による改善も広がりつつあります。
(「手書き」など手作業からの脱却)

《タイムレコーダーの活用》

【対象】

秋葉区：小須戸保育園，新津東保育園
西区：大野保育園，坂井保育園



効果が認められたことから、他の区でも導入が検討され、北区，東区，江南区，南区では導入が決まっています。

※中央区と西蒲区においても、導入を継続検討しています。

【試行内容】

タイムレコーダーによる登降園時間の管理

【試行開始】

秋葉区：平成30年5月

西区：平成30年6月



- ・登園，降園時に専用のタイムカードをレコーダーに通すことで時間が記録される
 - ・記録された時間はSDカードによってCSVでデータ出力が可能
 - ・出力された時間データは，延長保育料の算出にかかる計算シートへ貼り付けるだけで算出可能
 - ・保護者からも好評であり，保育園側も登降園時間の管理だけでなく，関連する延長保育料の算出にかかる業務負担が軽減した。
- (保育園では，1ヵ月あたり約18時間→約9時間に作業時間が縮減)

政策 改革

保育園からは、業務改善により、時間の短縮や負担の軽減の効果があったとの意見をいただいています。

課題	課題の内容	改善内容	保育園・区役所からの意見
課題 1	保育園の予定を職員ポータル のスケジュールへ入力する ことを原則廃止する	スケジュールへの入力は原則廃 止	・入力作業が無くなってありがたい。空 いた時間は別の業務ができるようになった
課題 2	保育園から保護者へ手渡しし ている保育料・延長保育料等 の納付書の受け渡し方法につ いて改善を図る	窓あき封筒の使用による作業効率 化	- 4月から実施 -
課題 6	職種別の給与データを保育課 へ報告する時期・回数・書式等 について再検討する	報告の頻度を毎月から年1回へ変 更	・年1回の報告になったため、自分の ペースで業務を行うことができるよう になったと感じる(区役所職員の声)
課題 7	児童延長保育一覧書式を変更 する	実績報告様式を変更し、保育園の 入力作業を効率化する。 (区役所にて、必要項目を事前に 入力する)	(保育園) ・入力項目が非常に少なくなったため、 作業時間もかなり減ったと感じている (区役所) ・作業が増えたが、難しい作業ではない ため、あまり負担を感じていない
課題 11	シフト作成後の変更を減らす	以下のアナウンスを継続的に行う ・休暇の予定は早めに伝えること ・計画的に休暇を取得すること	・目に見える効果ほどの効果は感じてい ないが、継続して取り組んでいく必要が あると思う

※出務票についての課題(課題4, 5, 10)については、2020年1月に全市展開を予定

※残った課題については、各区健康福祉課及び保育課を中心に継続して改善に取り組みを進めていきます。